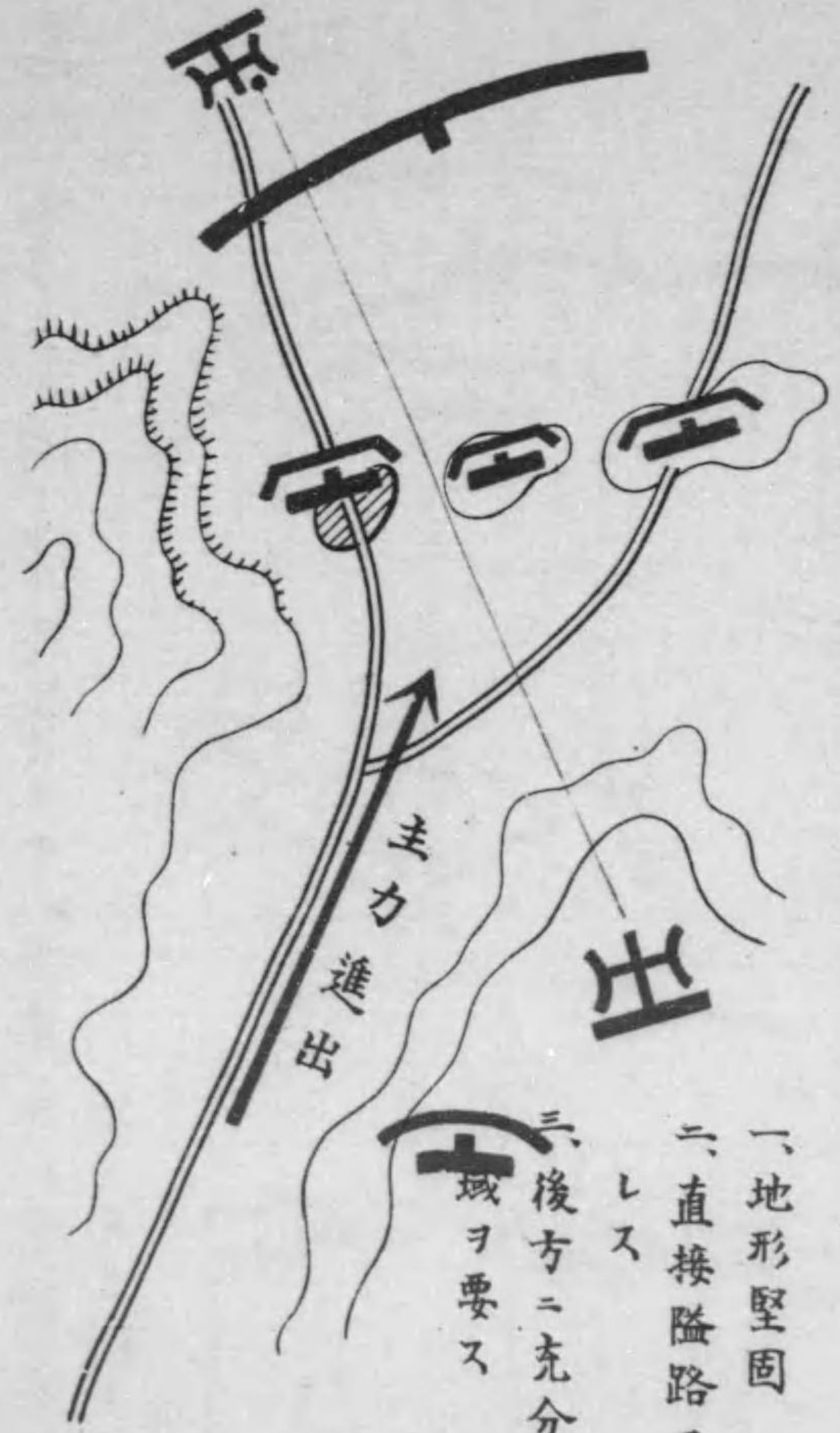


隘路前ノ防禦

其一、主力ノ隘路進出ヲ掩護スルトキ



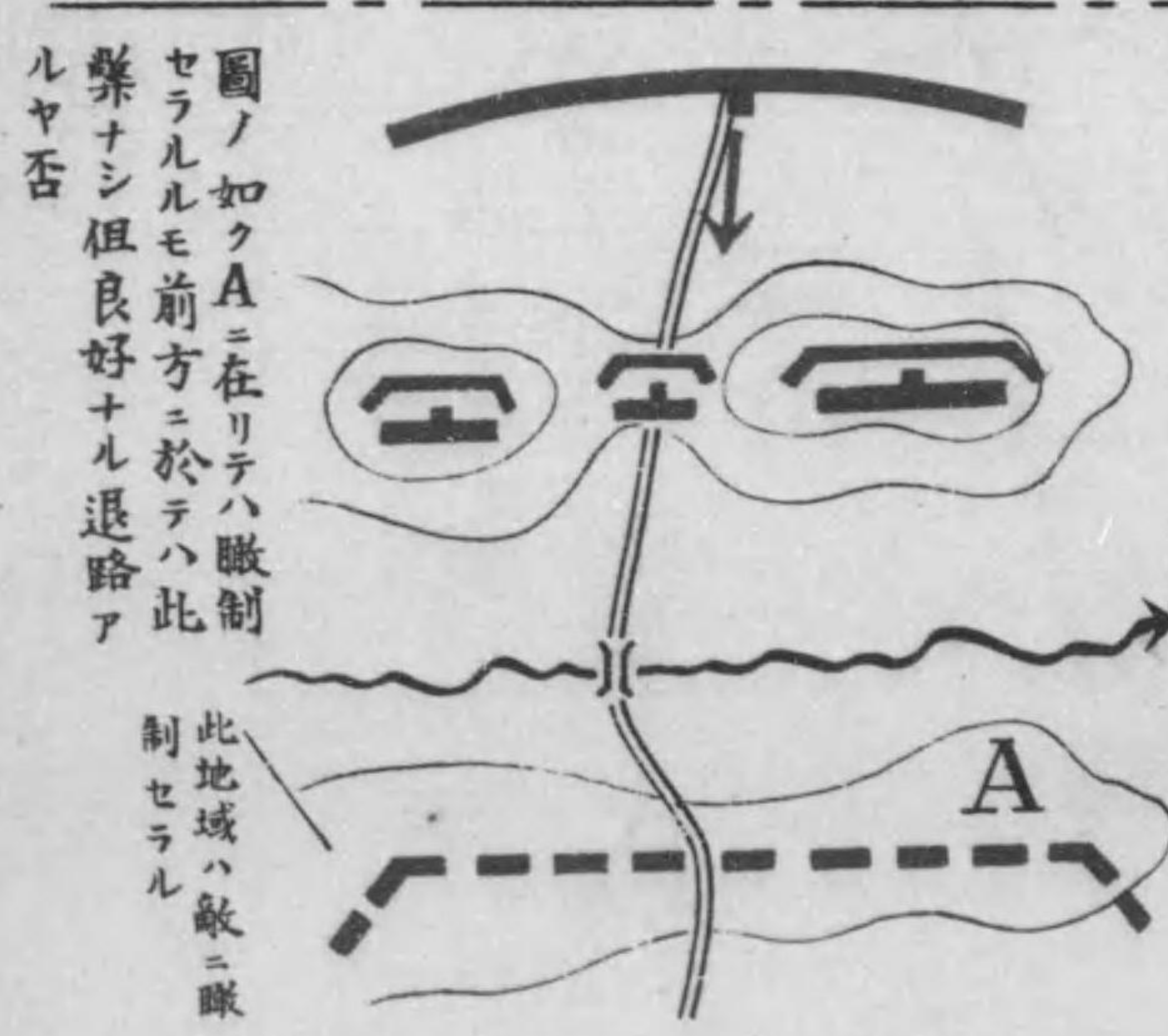
- 一、地形堅固
- 二、直接隘路ヲ射撃セラレシ
- 三、後方ニ充分ナル展開地域ヲ要ス

其二、主力ノ退却ヲ掩護スルトキ



- 一、地形堅固
- 二、包圍セラレシ
- 三、直接隘路ヲ射撃セラレシ

其三、地形上特ニ隘路ノ前方ヲ占領スルヲ利トスルトキ

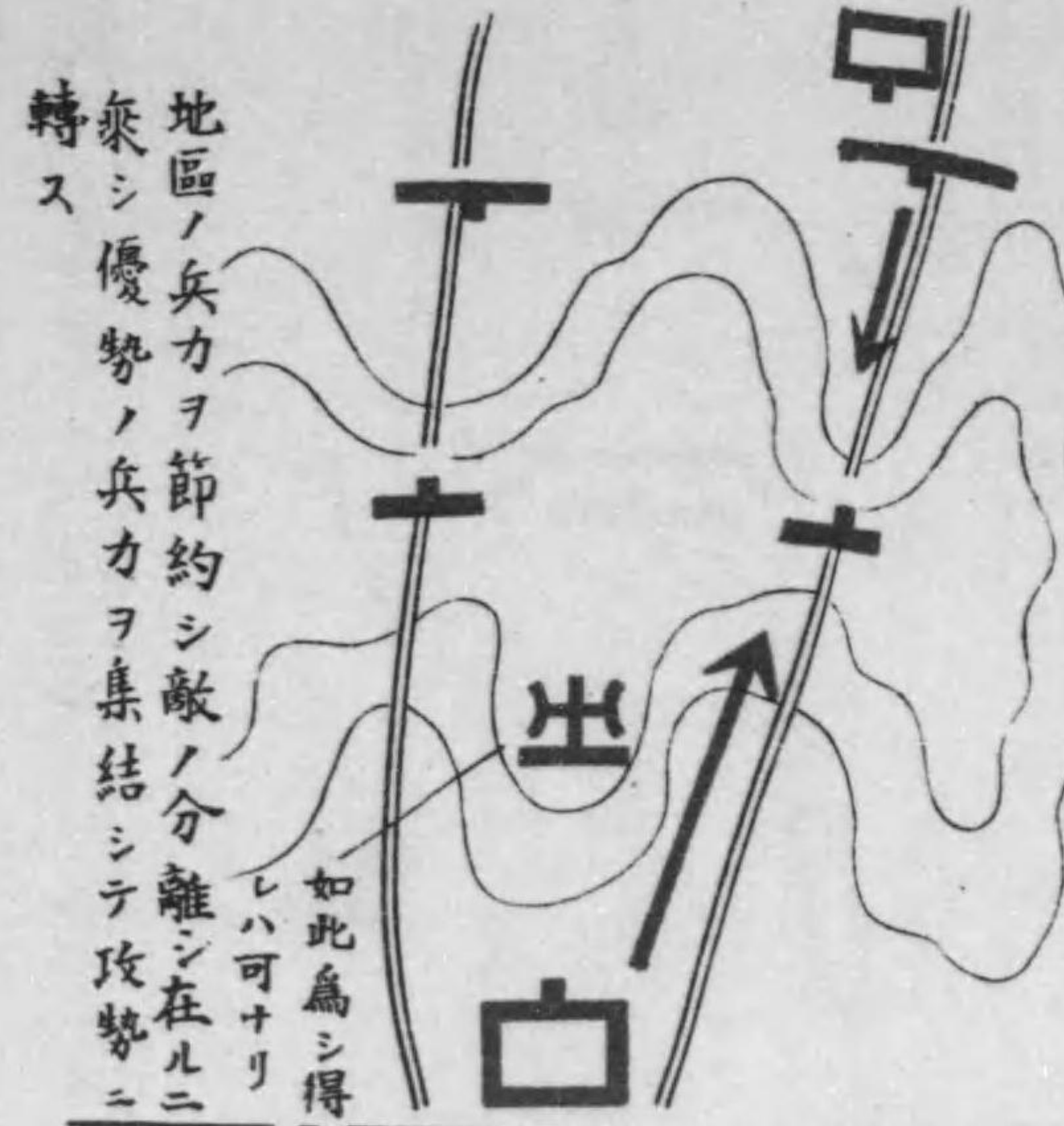


圖ノ如クAニ在リテハ瞰制セラルルモ前方ニ於テハ此弊ナシ但良好ナル退路アルヤ否

此地域ハ敵ニ瞰制セラル

山地防禦 其一、攻勢ノ企圖アル場合

(一) 交通便ナルトキ



地區ノ兵力ヲ節約シ敵ノ分離シ在ルニ乘シ優勢ノ兵力ヲ集結シテ攻勢ニ轉ス

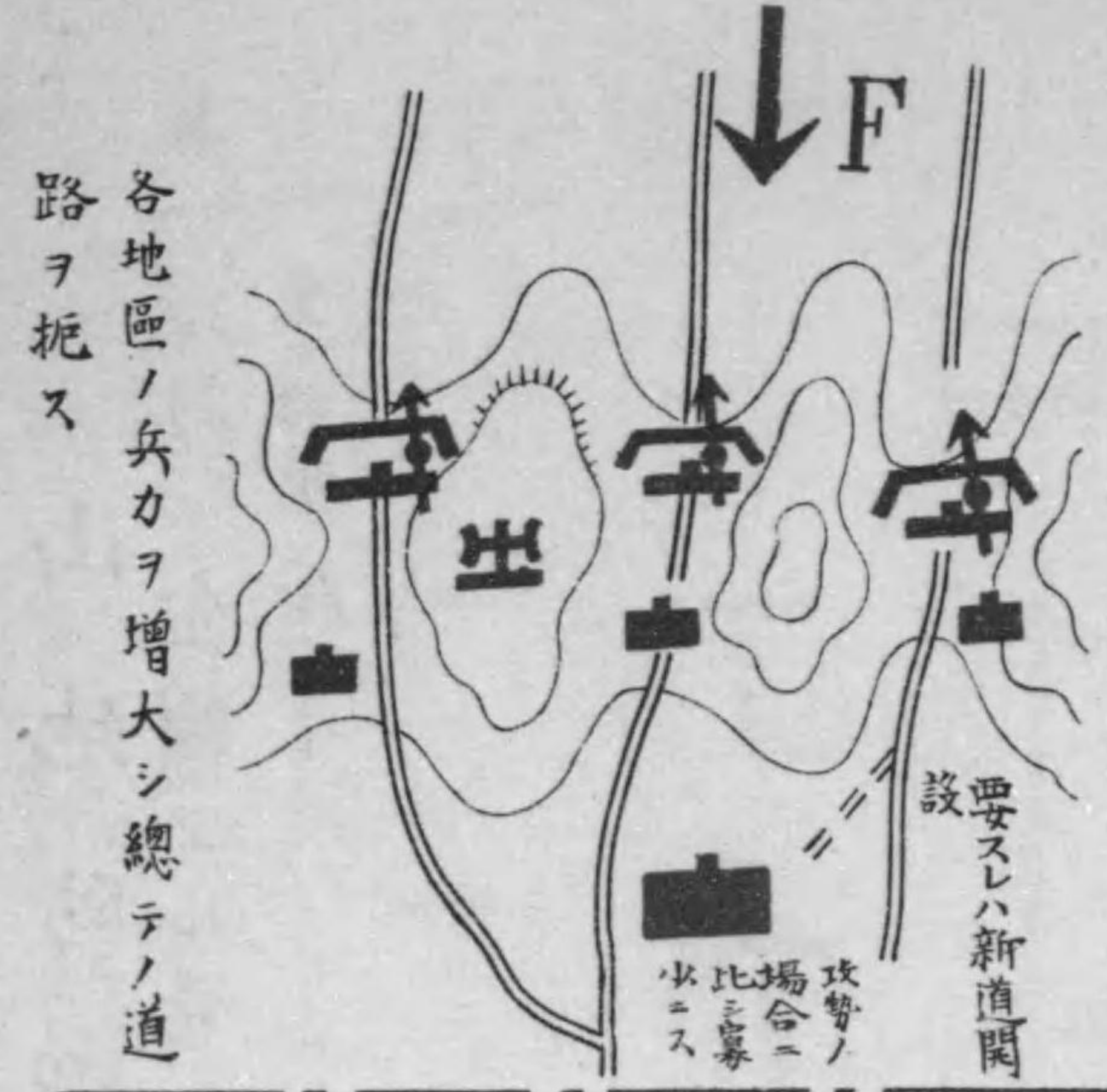
(二) 交通不便ナルトキ



地區ノ兵力ヲ増シ又ハ總隊備ヲ分置シ以テ地區毎ニ獨立シテ戦闘セシム

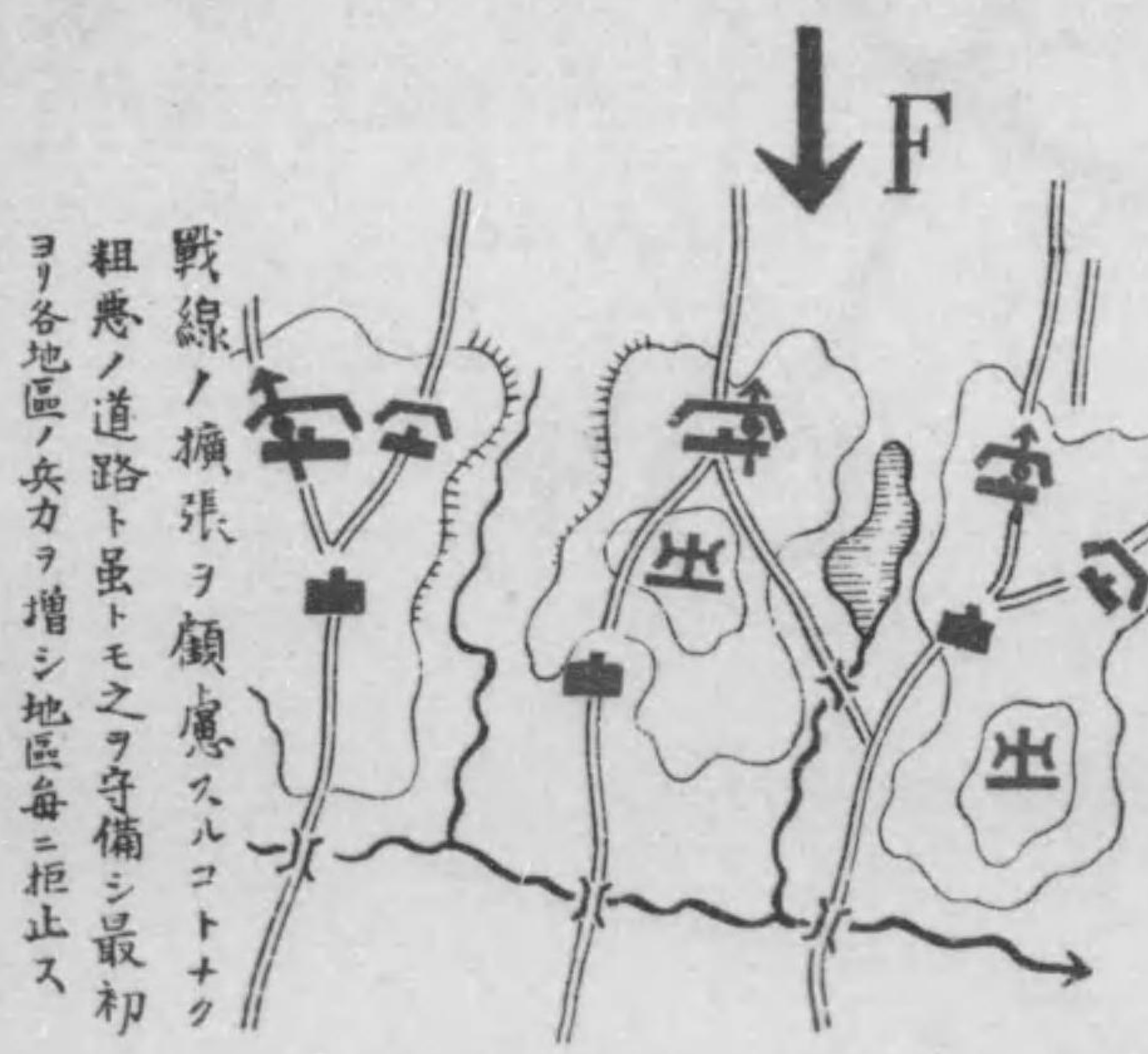
其二、時間ノ餘裕ヲ得ントスルトキ

(一) 交通便利ナルトキ



各地區ノ兵力ヲ増大シ總テノ道路ヲ扼ス

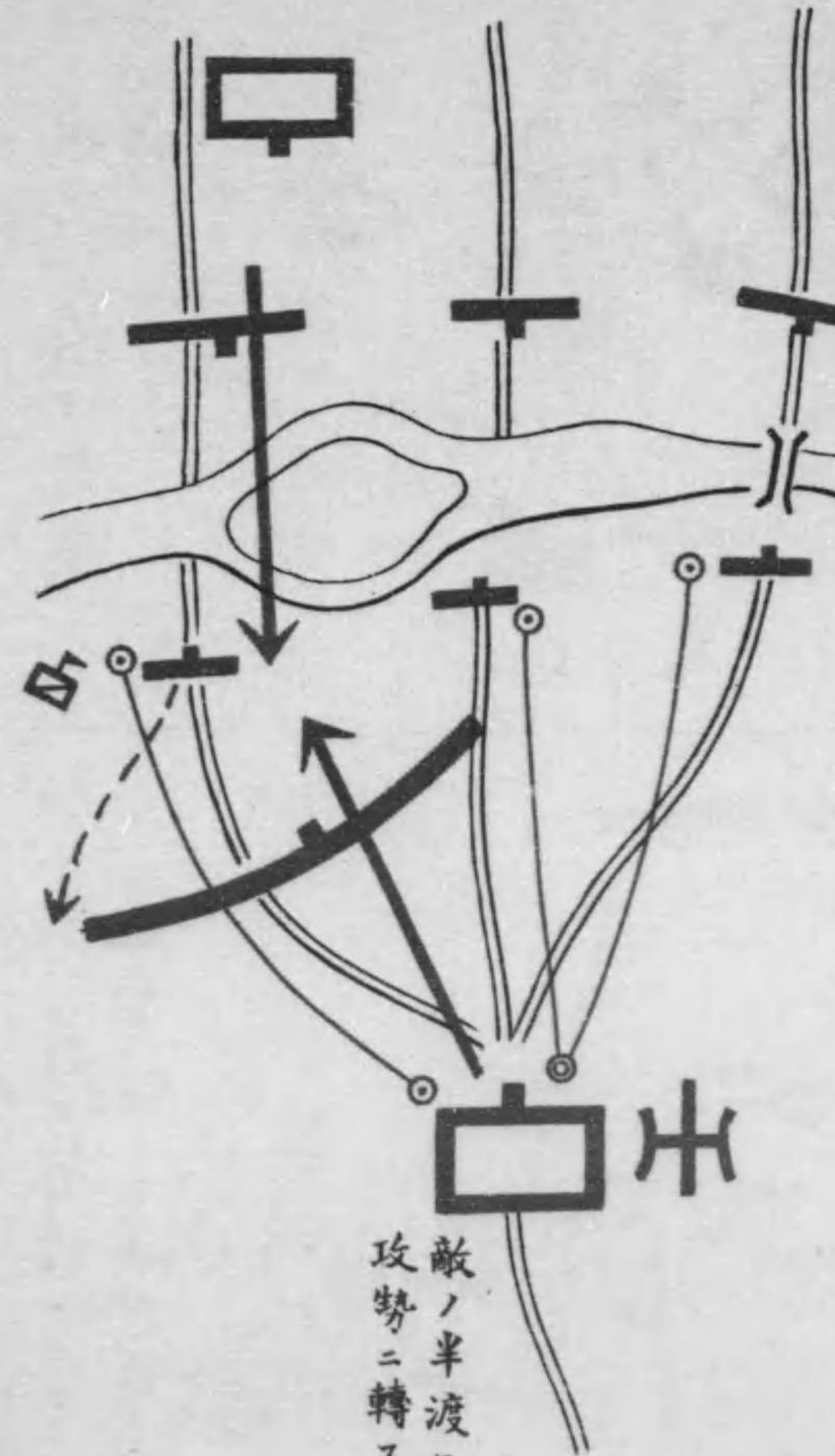
(二) 交通不便ナルトキ



戦線ノ擴張ヲ顧慮スルコトナク粗悪ノ道路ト虽トモ之ヲ守備シ最初ヨリ各地區ノ兵力ヲ増シ地區毎ニ拒止ス

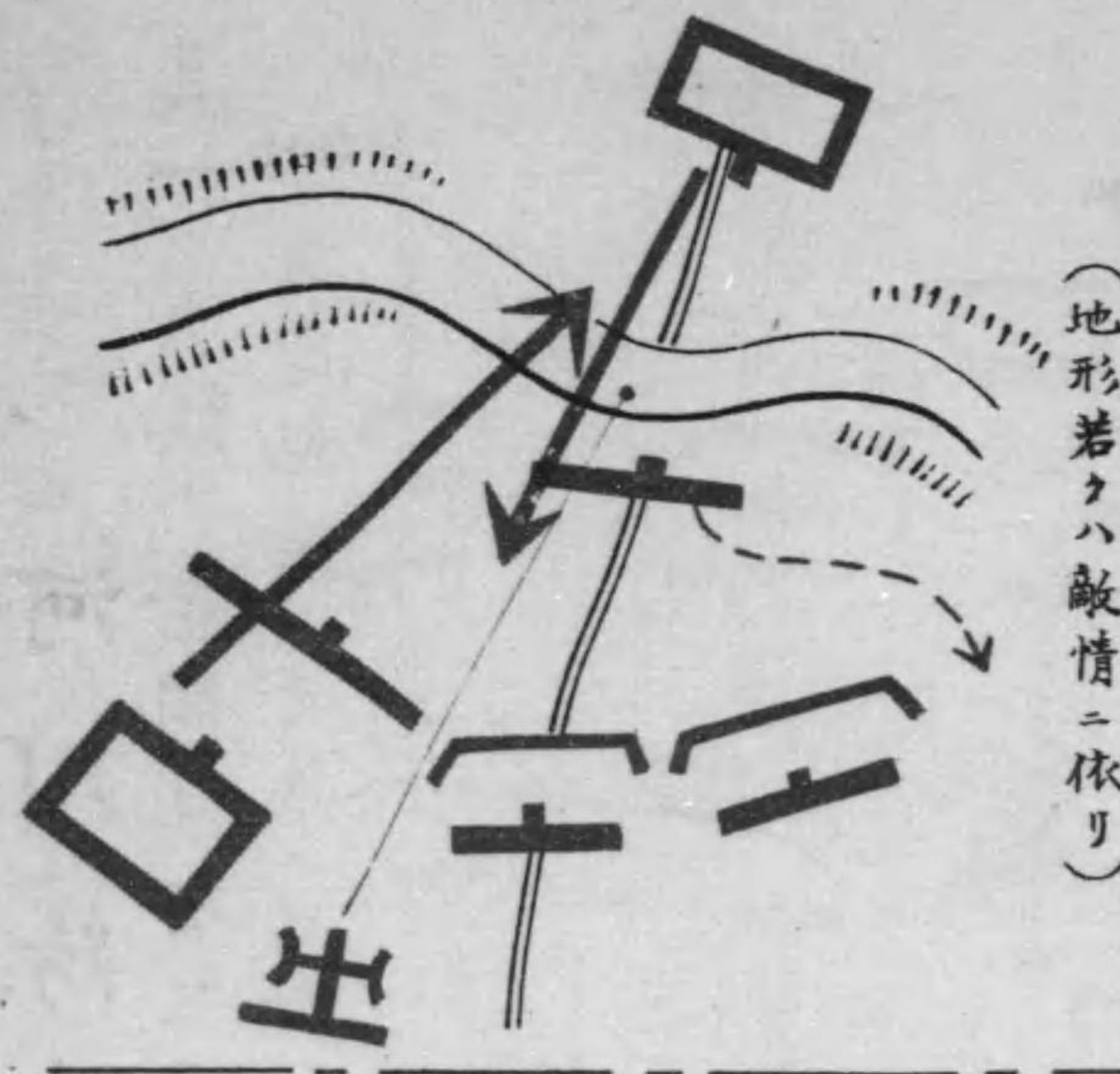
河川防禦

其一、決戦ノ企圖ヲ有スル場合
(一) 後退配備 (普通ノ場合)

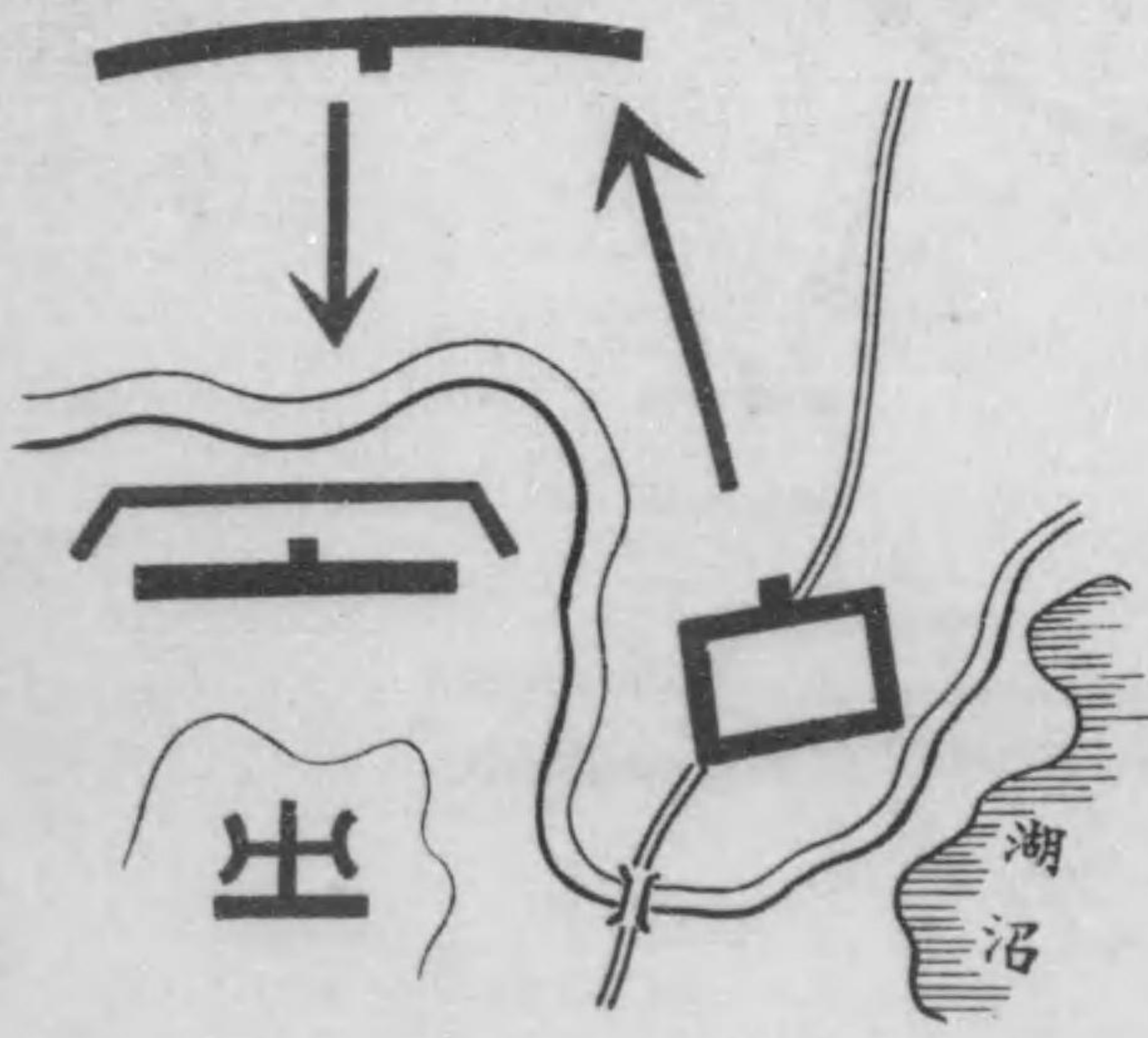


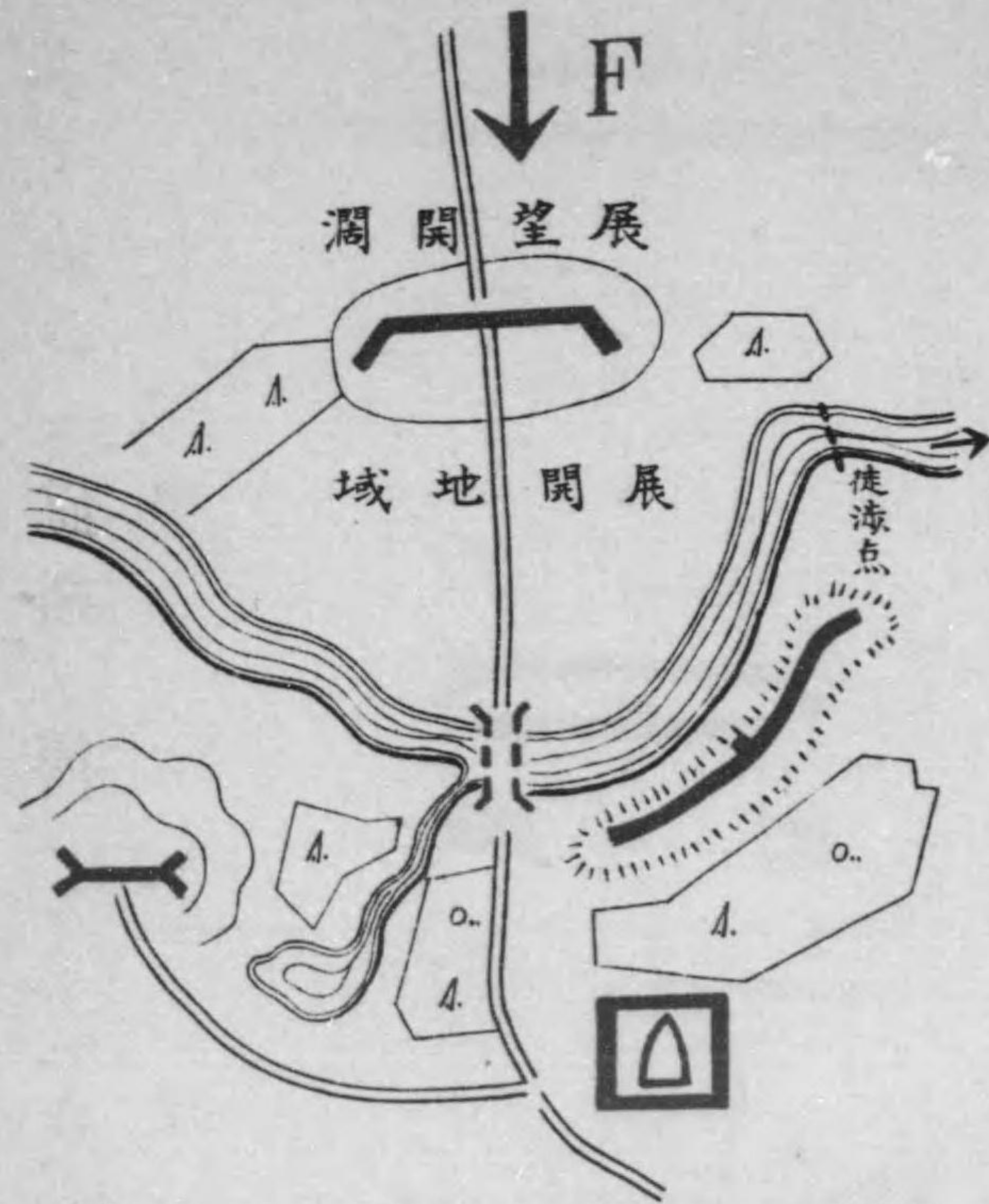
敵ノ半渡ニ乘シ
攻勢ニ轉ス

(二) 敵ノ進出方向ヲ豫察シ
得ル場合
(地形若クハ敵情ニ依リ)



(三) 地形特ニ有利ナルタメ直接
配備 (殆ント稀有ナルヘシ)

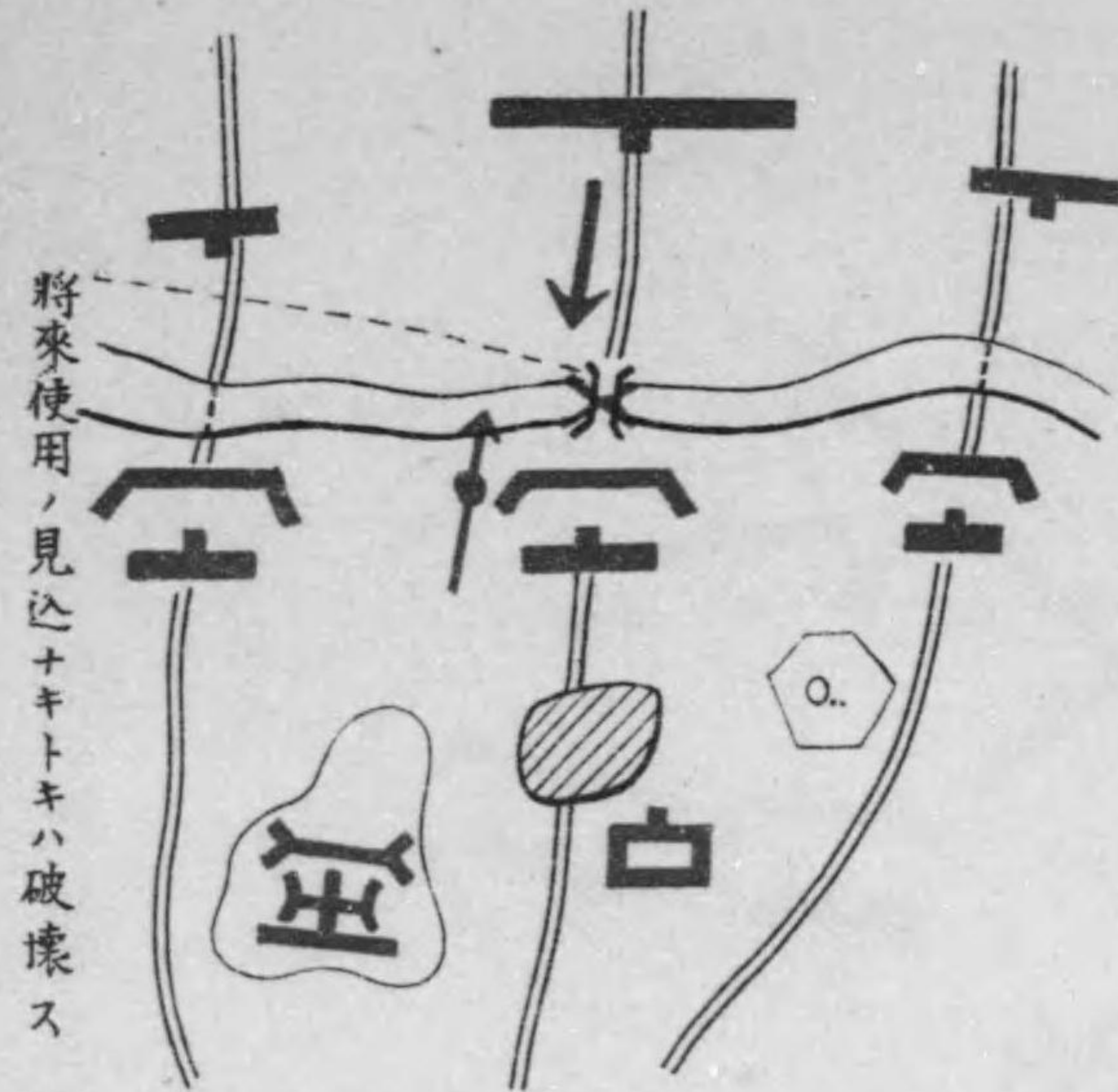




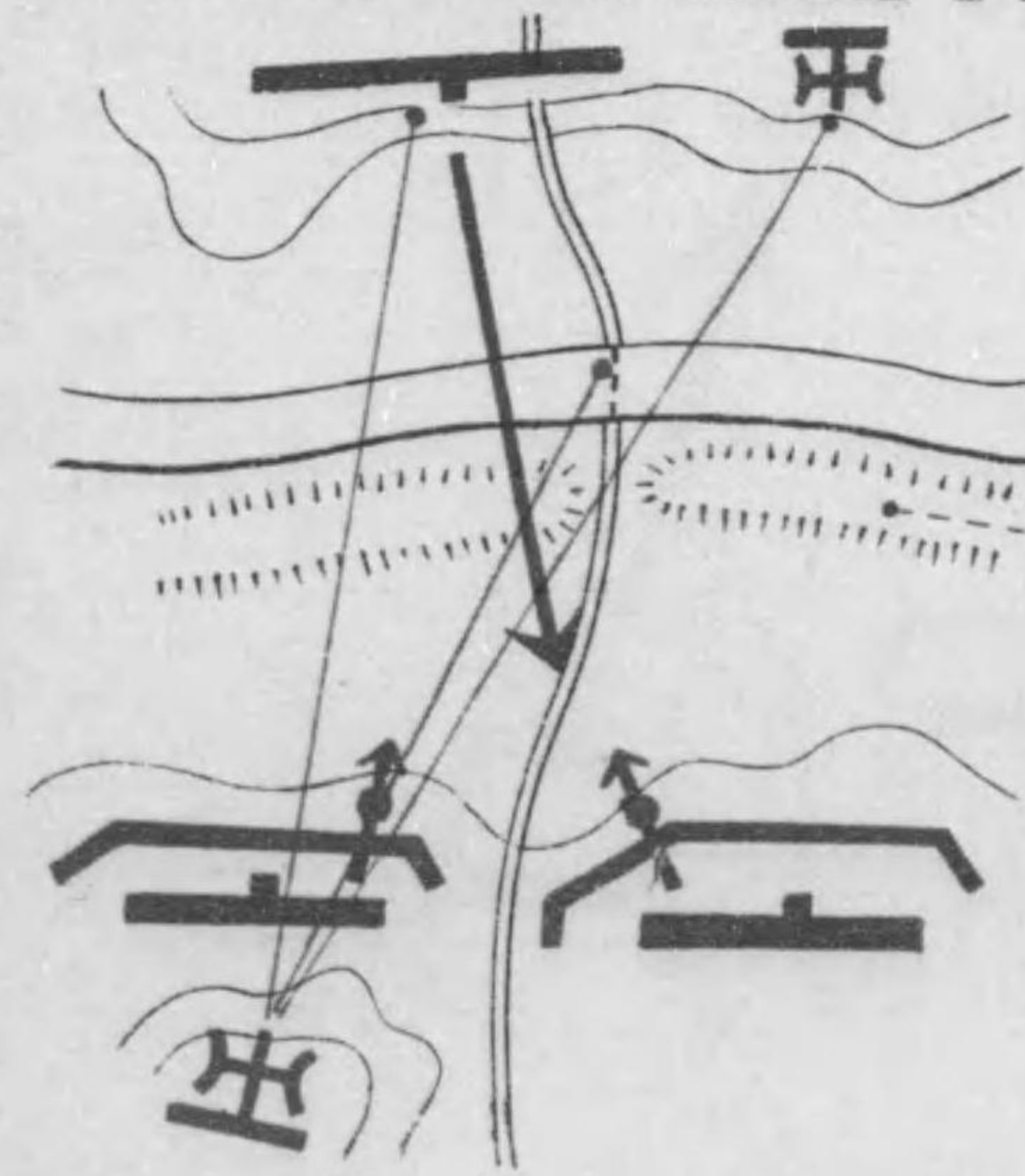
戦術上適當ナル架橋点

- 一、渡河後ノ攻撃ニ於テ軍隊ヲ有利ニ使用シ得ル方面ナルコト
- 二、適當ナル架橋、渡河掩護陣地ヲ有シ且我岸ヨリ掩護隊ヲ援助シ得ルコト
- 三、渡河準備ヲ秘匿シ且容易ニ之ヲ整へ得ルコト
- 四、作戰路ノ近傍ニシテ兩岸交通自在ナルコト
- 五、軍隊集合ノ地幅充分ニシテ安全ナルコト
- 六、架橋点附近ニ徒渉場アルコト

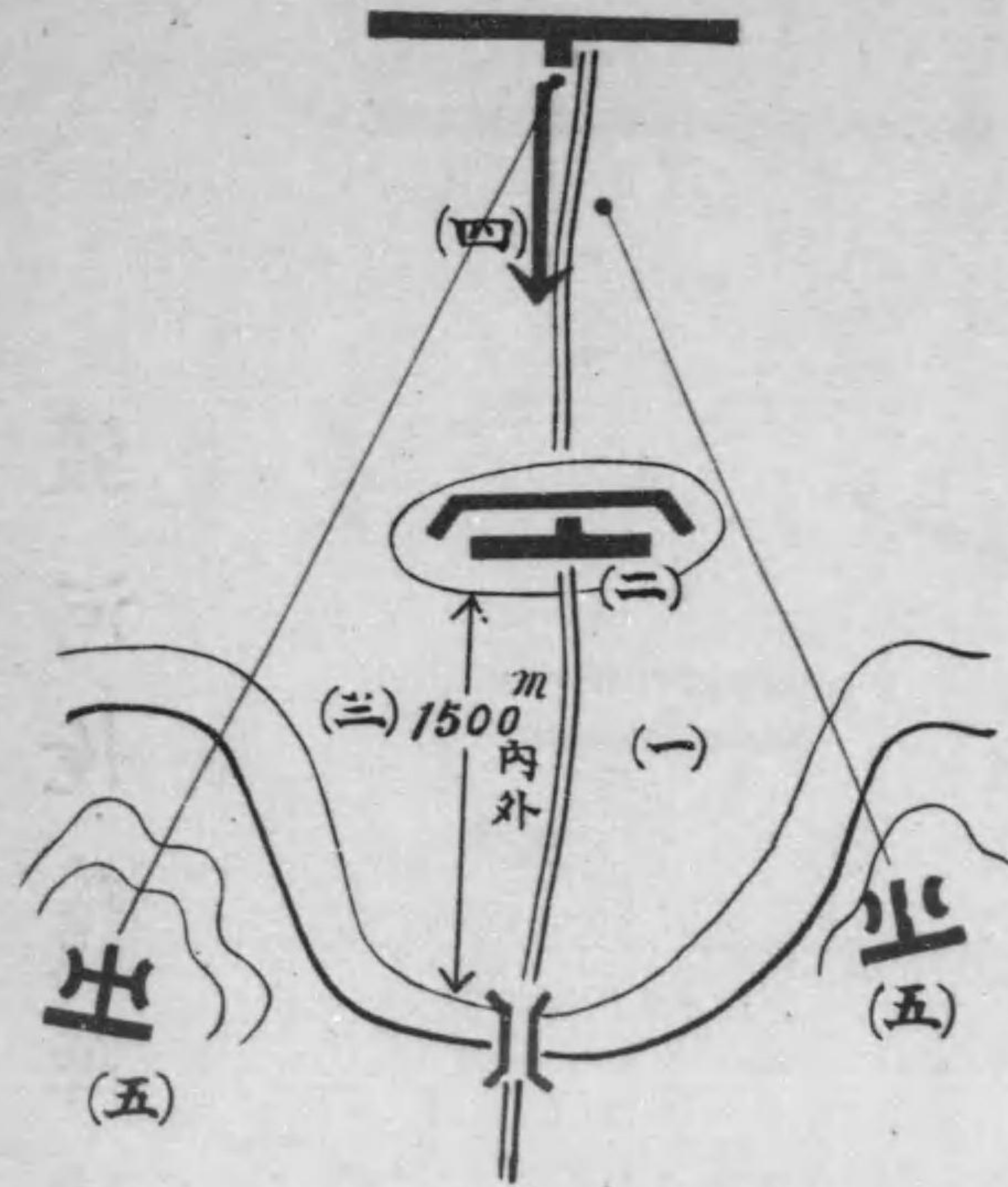
其二、時間ノ餘裕ヲ得ントスル場合



(一) 直接配備

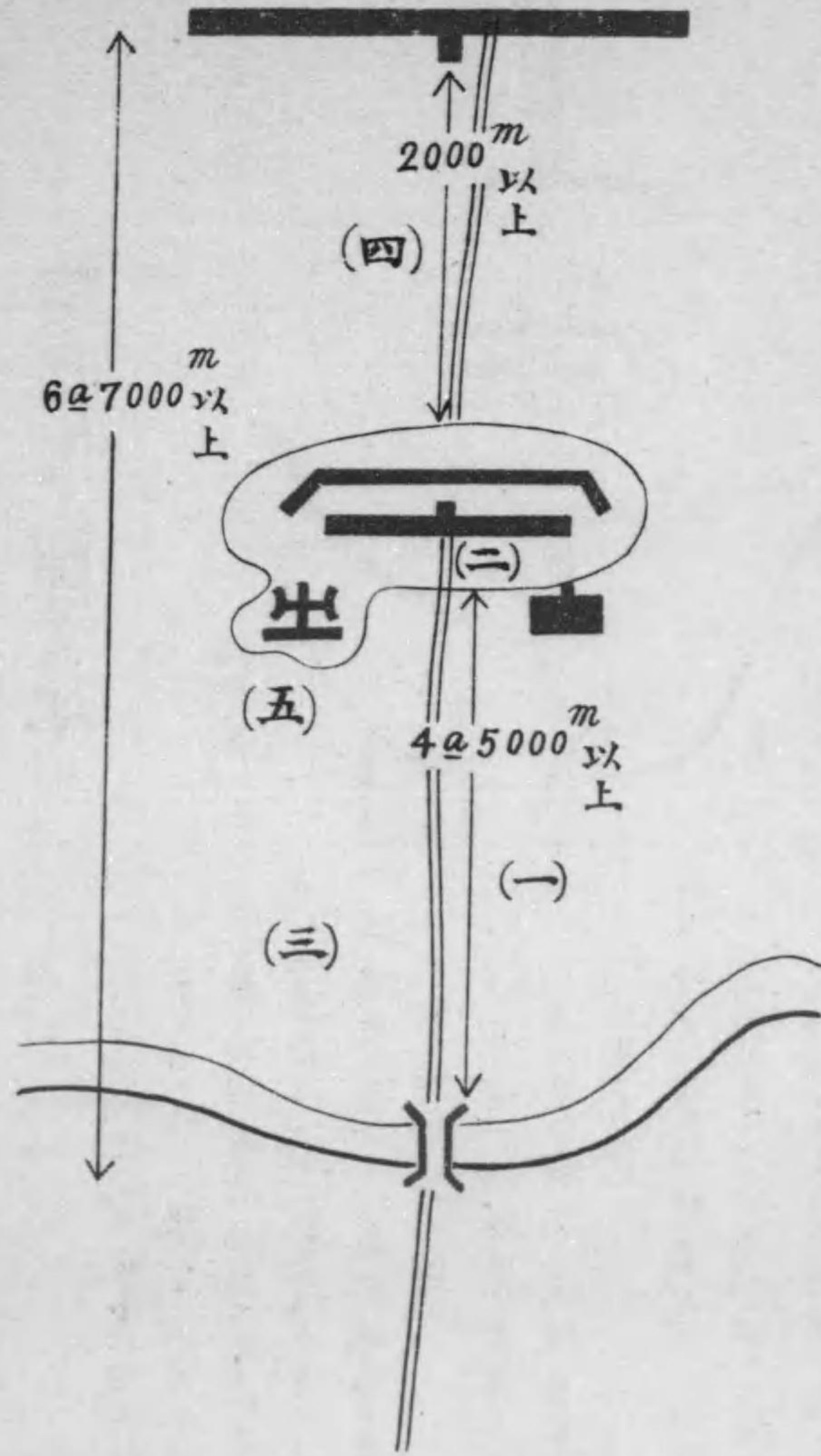


(二) 後退配備



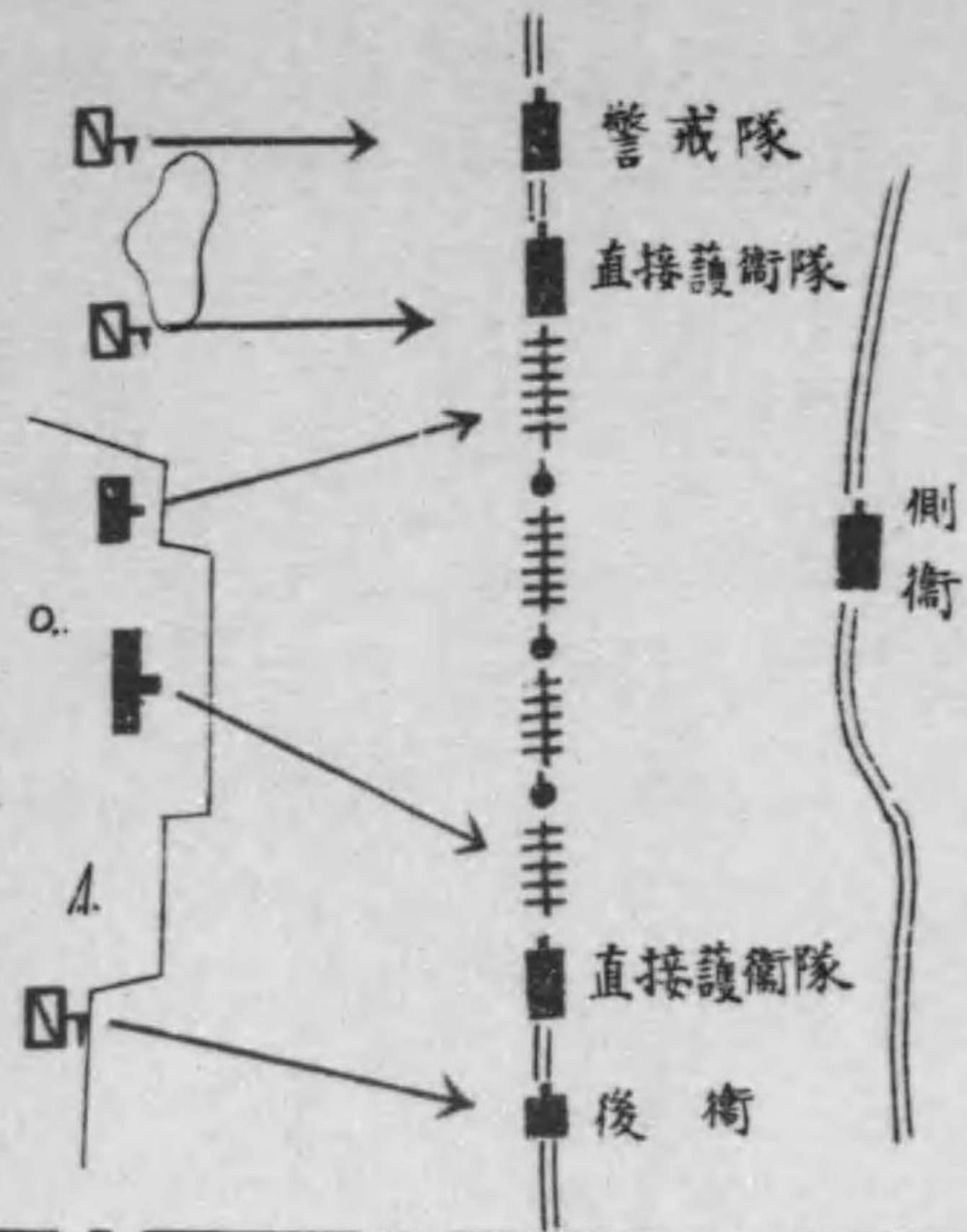
架橋陣地

- 一、前者ハ敵砲火ヲ後者ハ夜間作業ナルヲ以テ小銃火ヲ顧慮シ損害ヲ同時ニ架橋点ニ及ホサル如クス
- 二、通常兵力ニ比シ正面過廣ナリ
- 三、前者ハ充分ナル展開地域ヲ要スルモ後者ハ之ヲ要セス
- 四、前者ハ將來ノ進出ヲ企圖スルト多ク從テ前地ノ運動容易ナルヲ要ス
- 五、後者ハ距離、陣地、兵力ノ關係上對岸ヨリ掩護射撃シ得ルヲ有利トスレトモ前者ハ獨立シテ砲兵陣地ヲ有スルヲ要ス

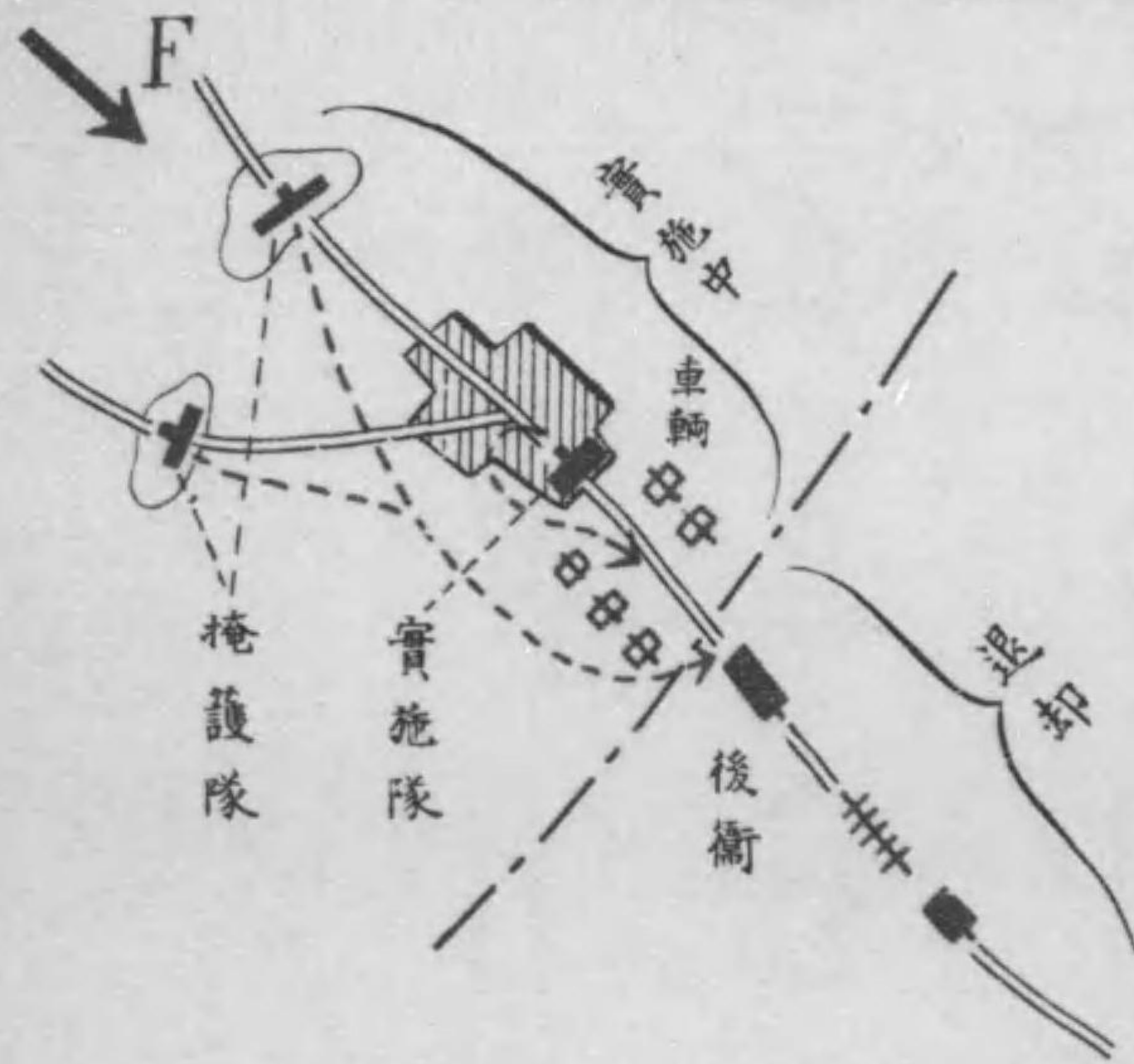


渡河掩護陣地

如此諸方向ヨリ襲撃シ殊ニ先頭後尾ノ馬車ヲ破壊スルヲ利アリトス

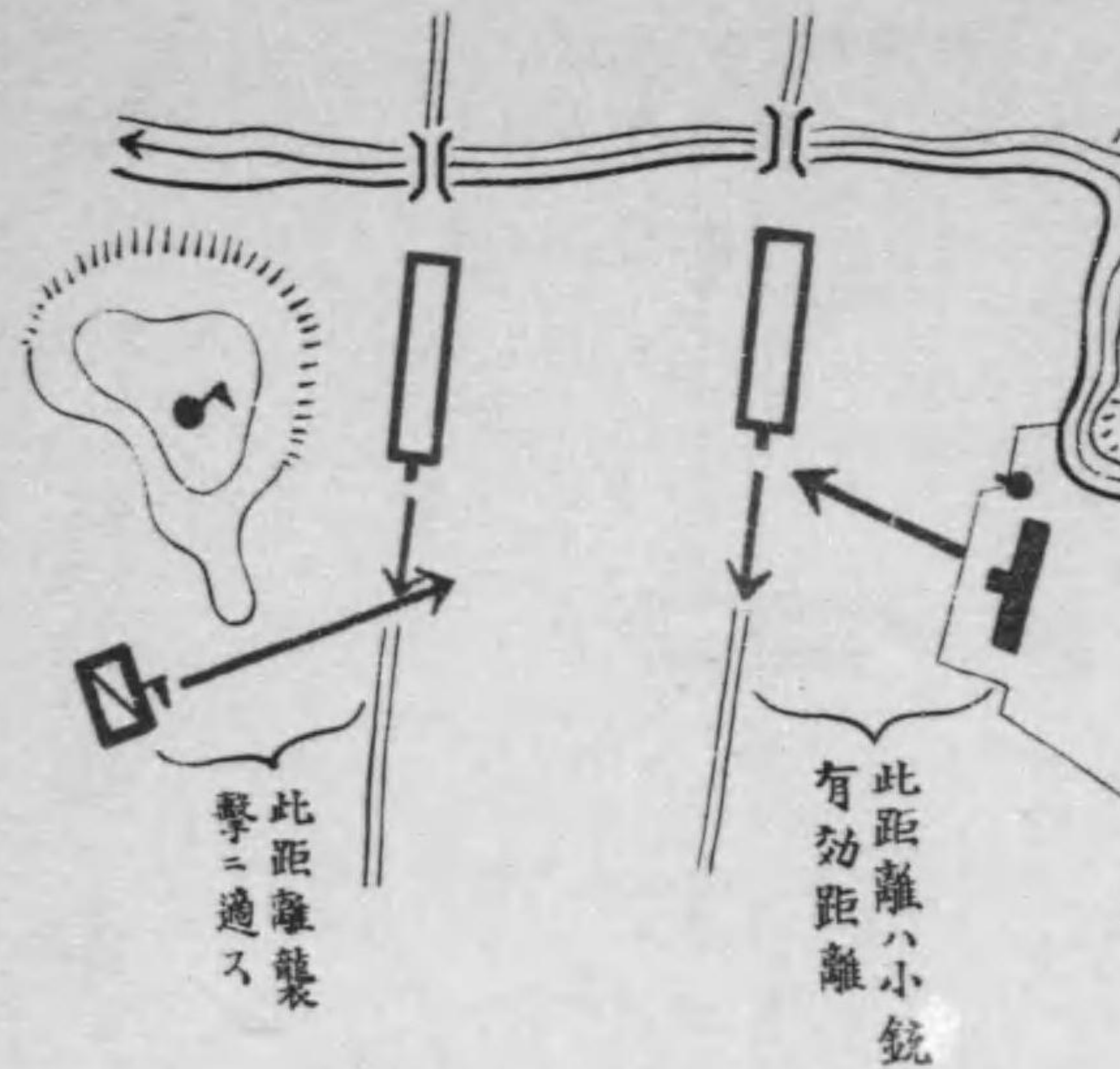


輸送物ノ護衛並ニ奪畧

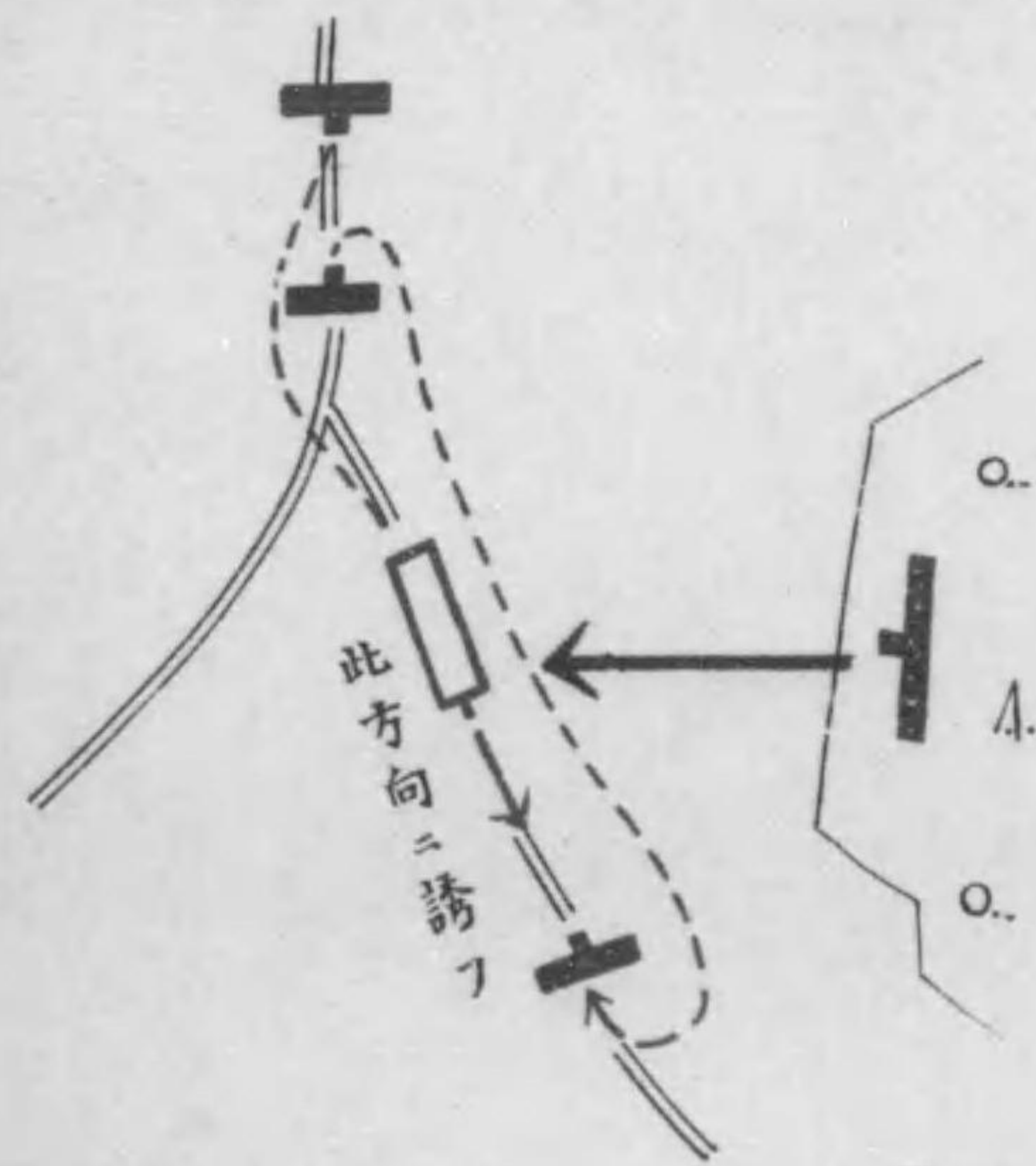


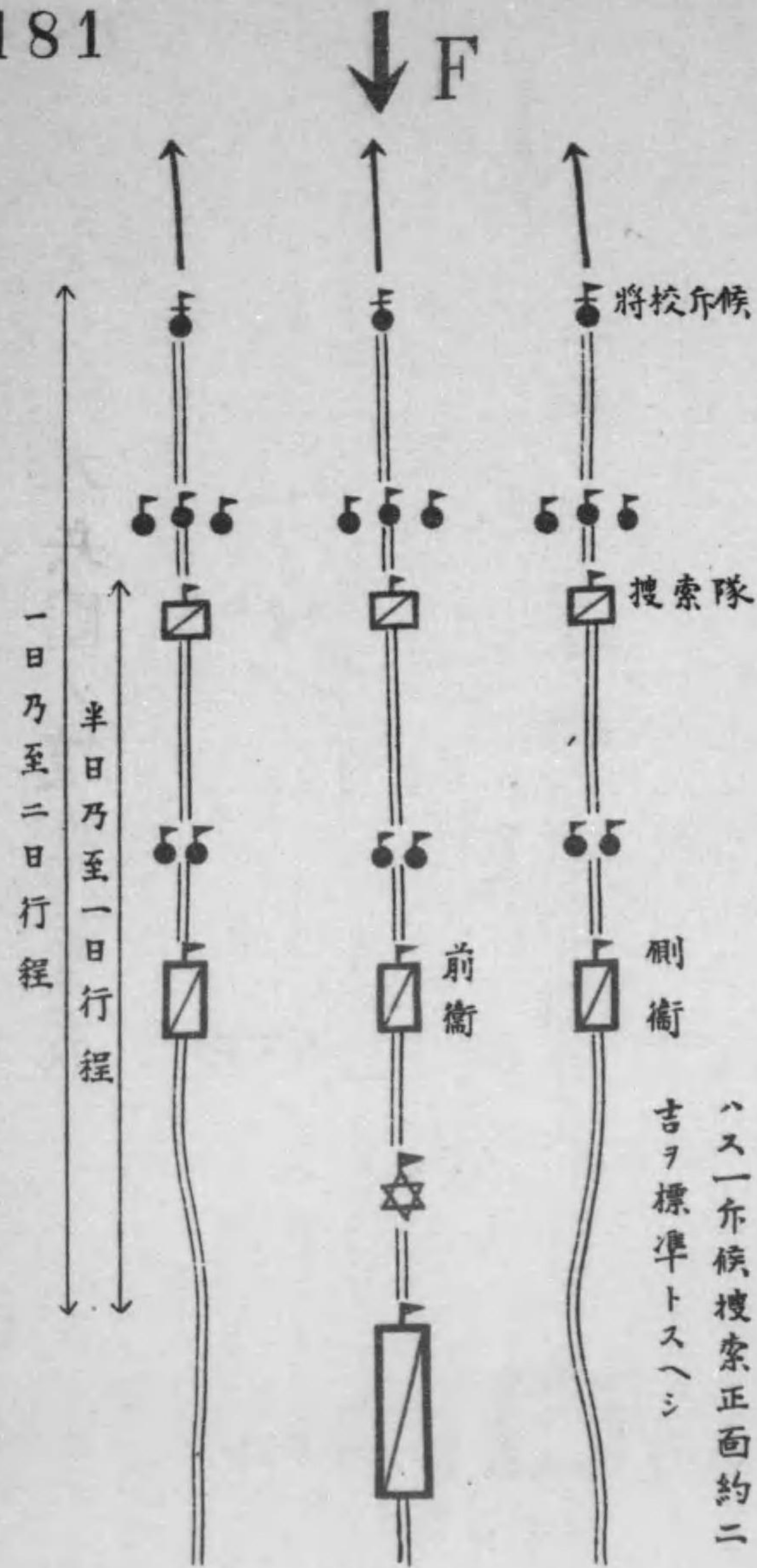
微發掩護

其一、待伏兵



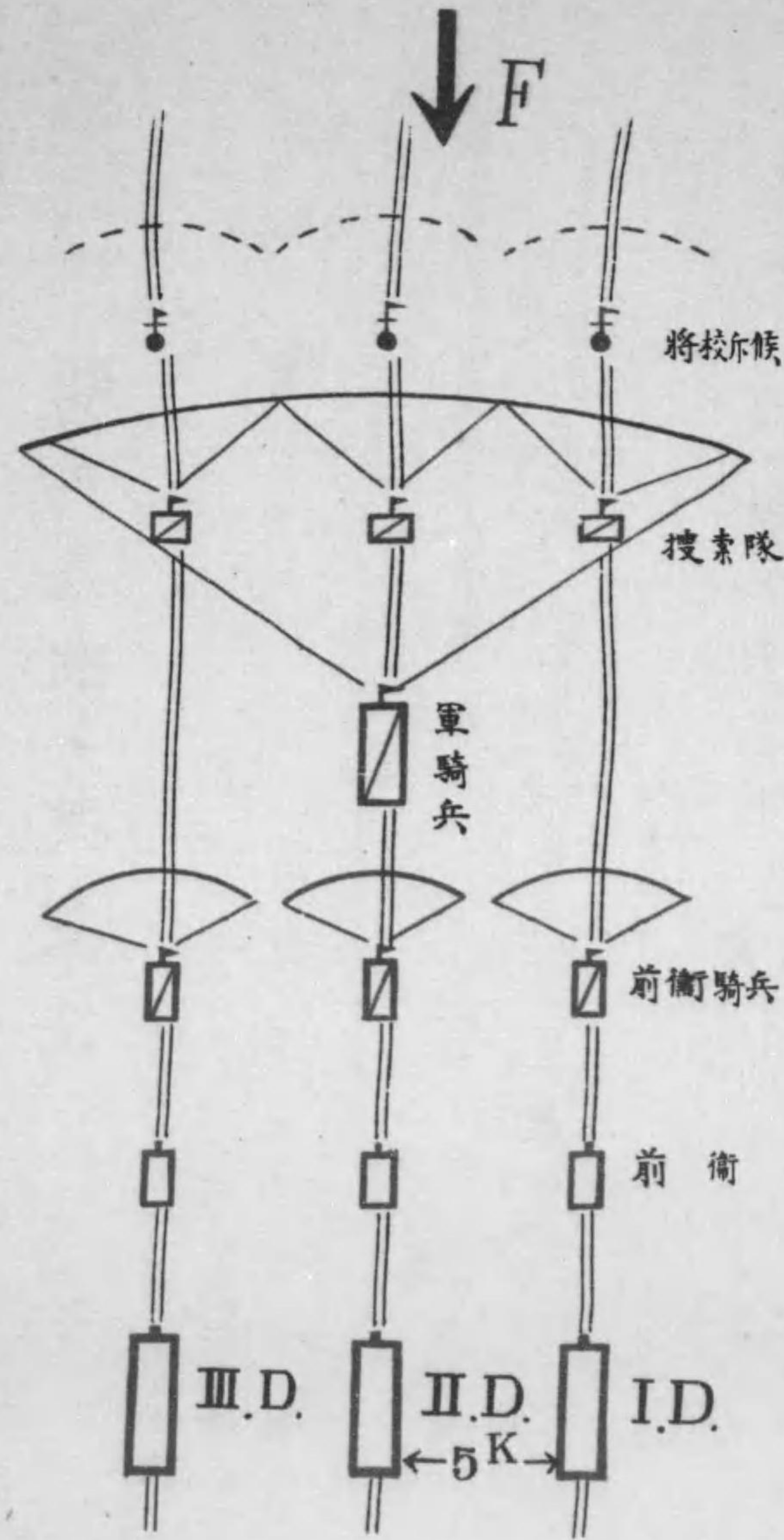
其二、誘撃



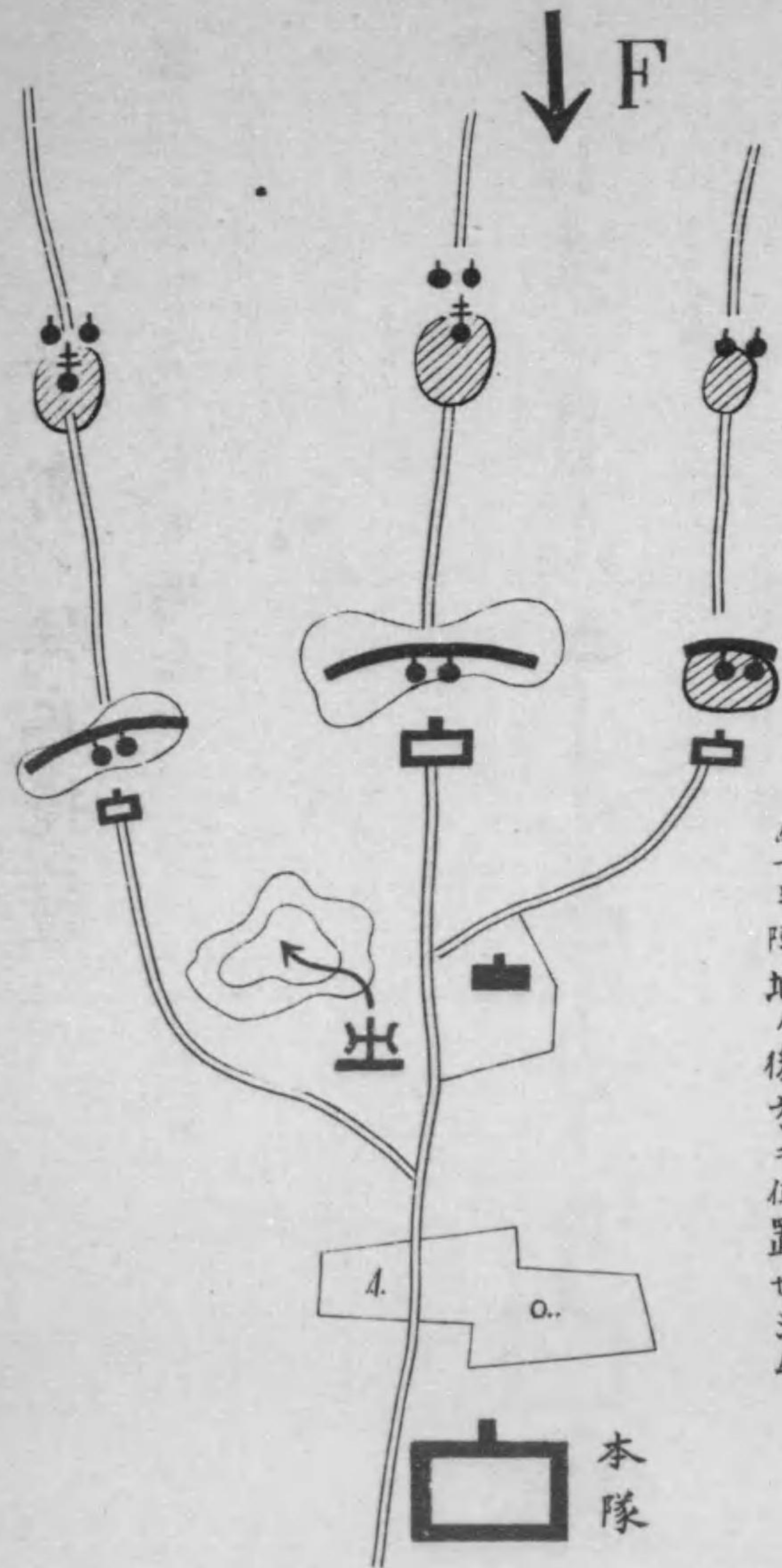


騎兵旅團ノ搜索法

搜索正面ハ一定スルコト能
ハス一介候搜索正面約二
吉ヲ標準トスヘシ



大兵團ノ搜索警戒

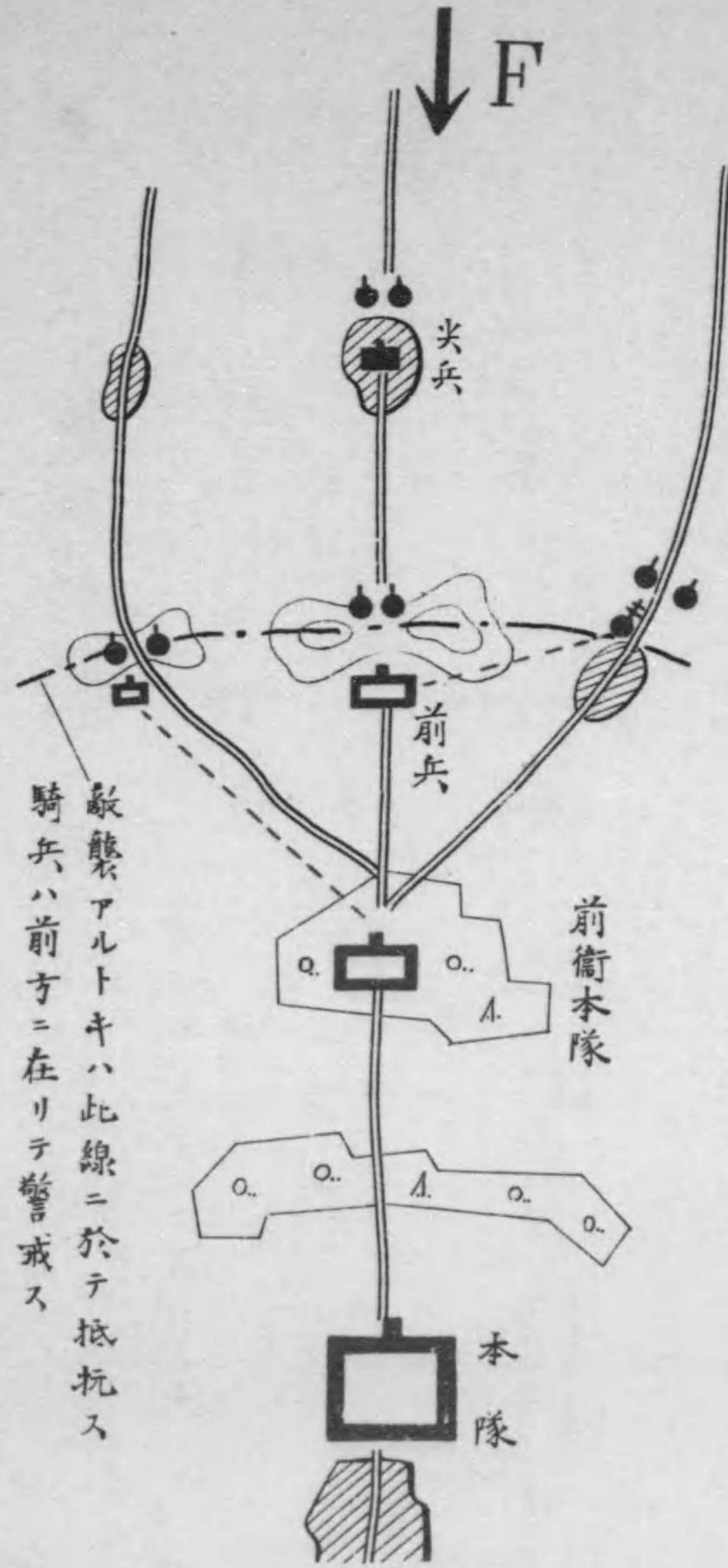


其二、敵ト近キ場合

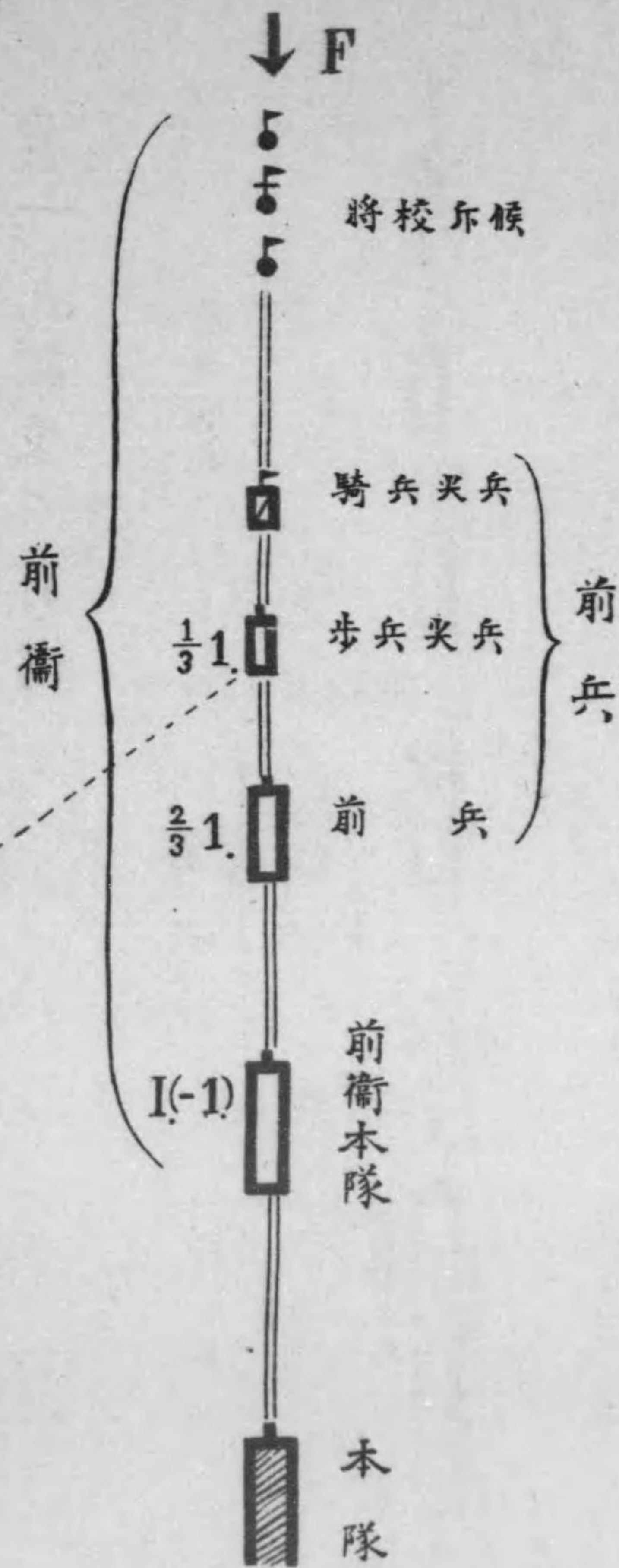
前衛ハ大部ヲ展開シ各隊ヲシテ其占ムニキ陣地ノ後方ニ位置セシム

其二、敵ト稍遠キ場合

前衛ノ駐止掩護

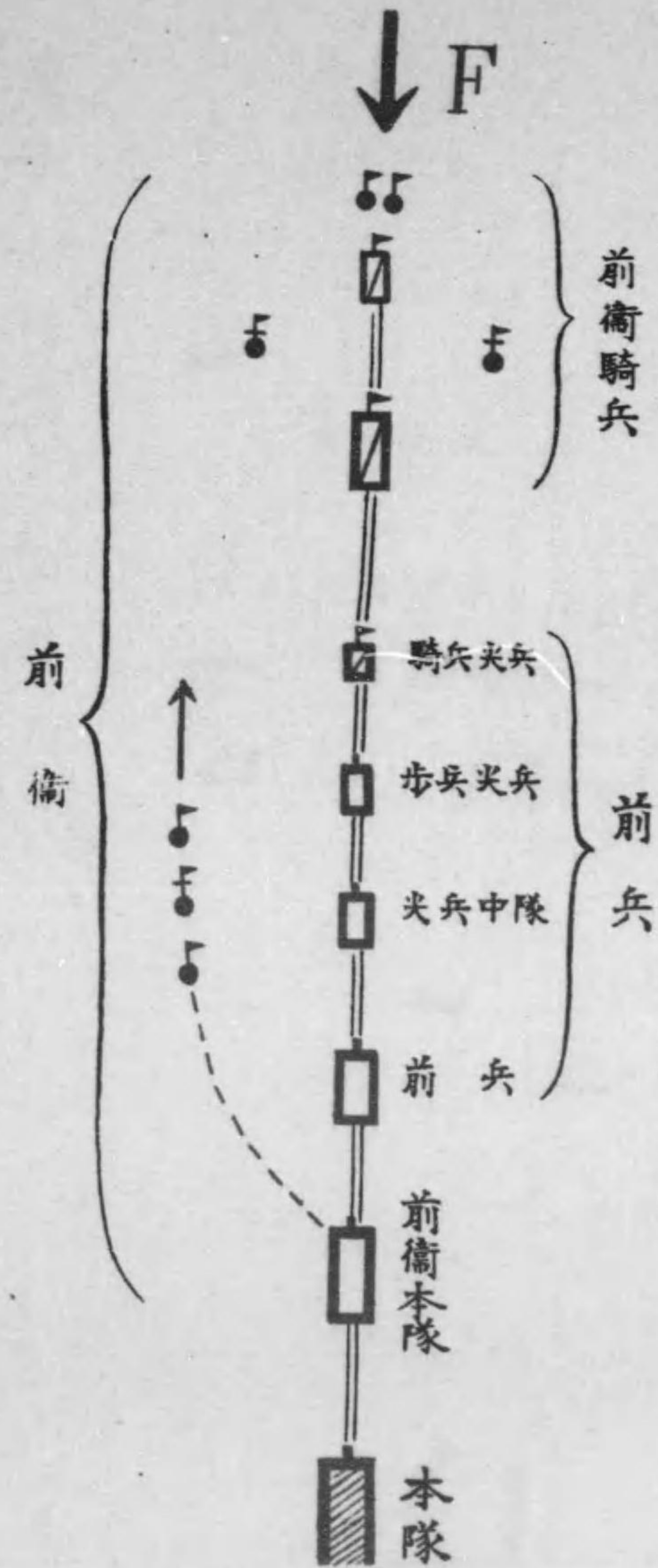


敵襲アルトキハ此線ニ於テ抵抗ス
騎兵ハ前方ニ在リテ警戒ス



同シク一中隊ナルモ此際之ヲ尖兵
中隊ト言ハスシテ前兵ト謂フ

其二 小部隊ノ前衛



其一 大部隊ノ前衛

前衛ノ區分

$$B + x = A$$

$$B + x - 700 = A$$

$$x = A - B + 700$$

$$= 2900 - 2500 + 700$$

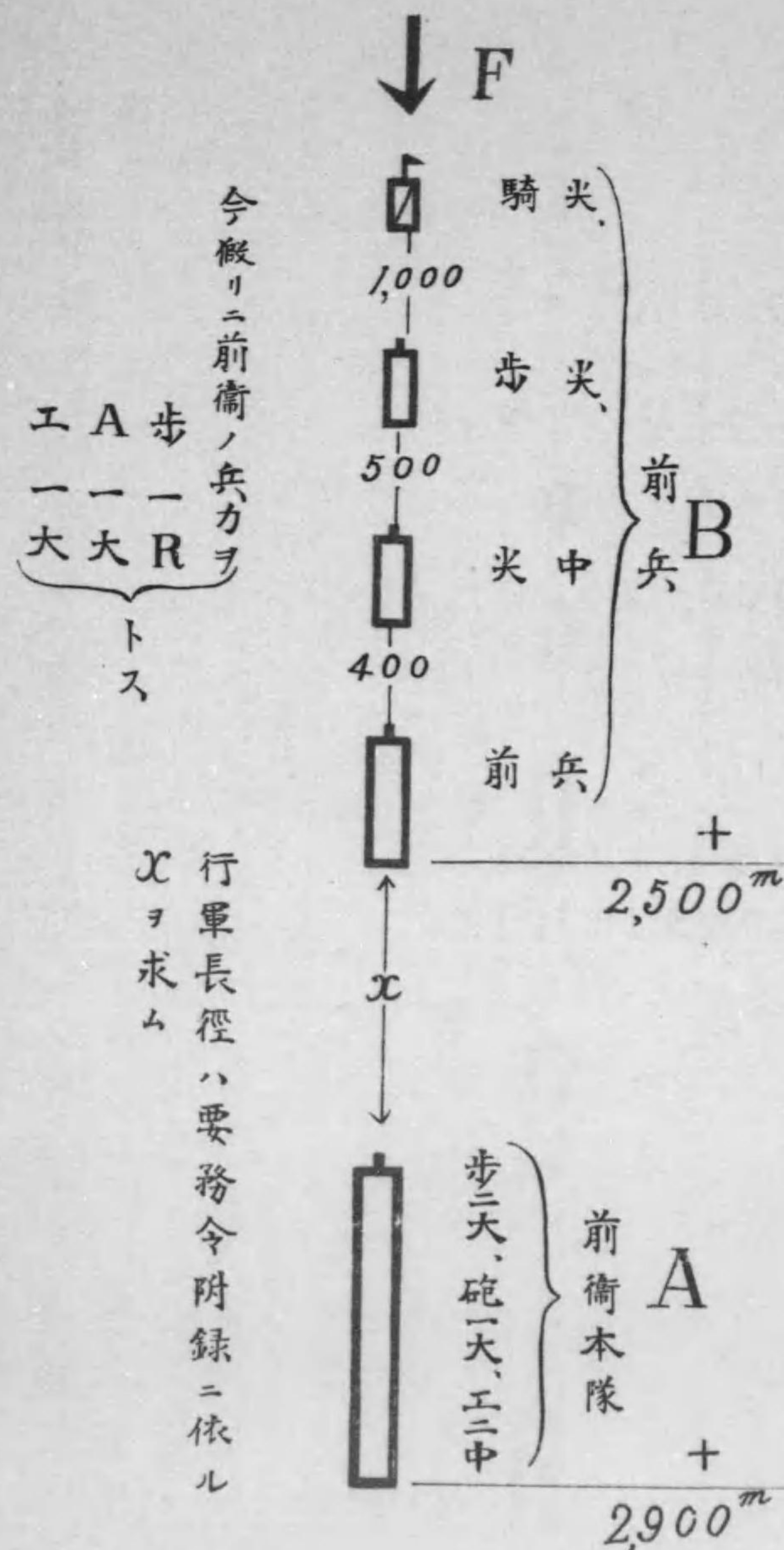
$$= 400 + 700$$

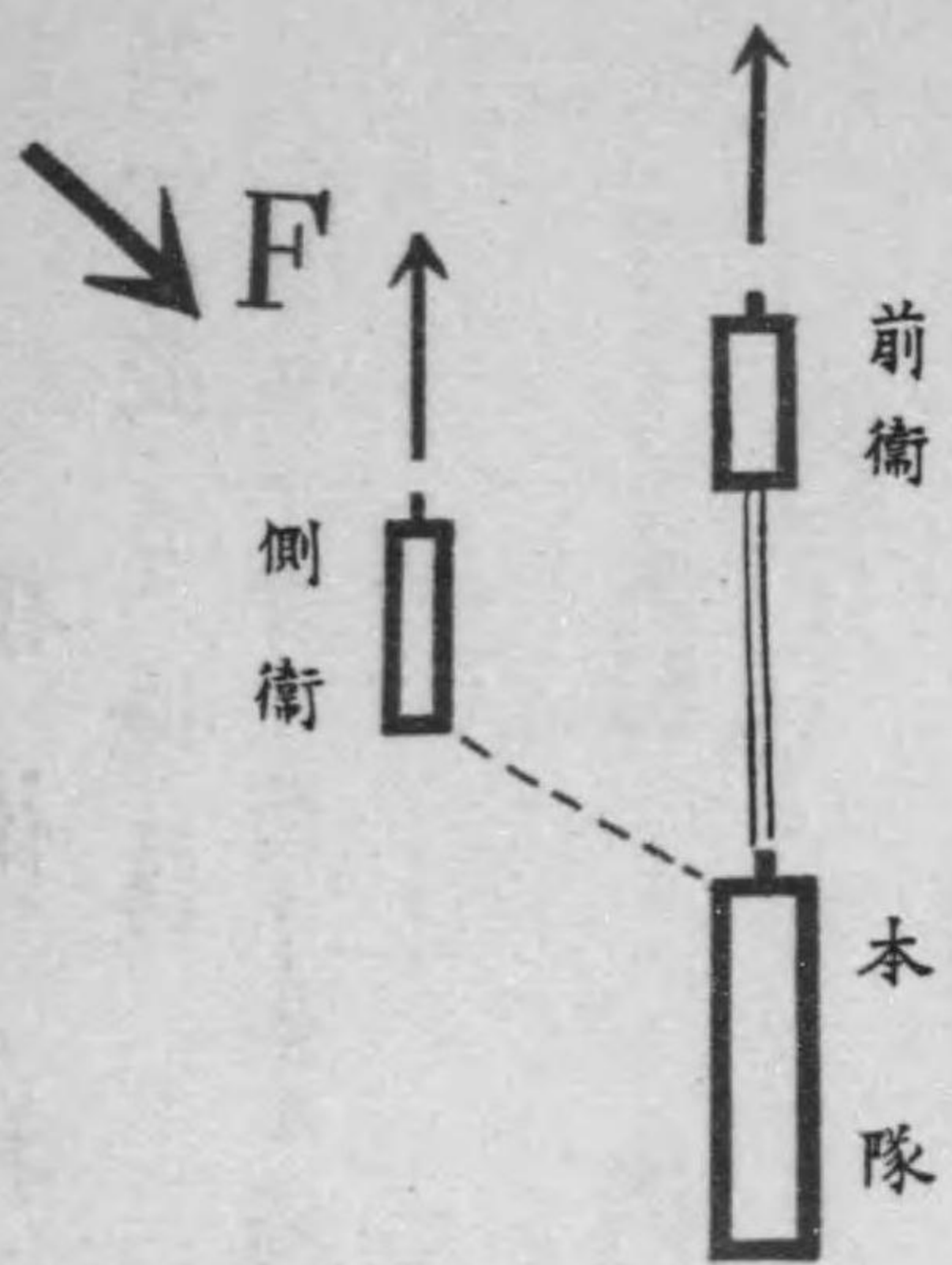
$$= 1100$$

約千百米ナリ要務令ニハ
700乃至1200トアリ

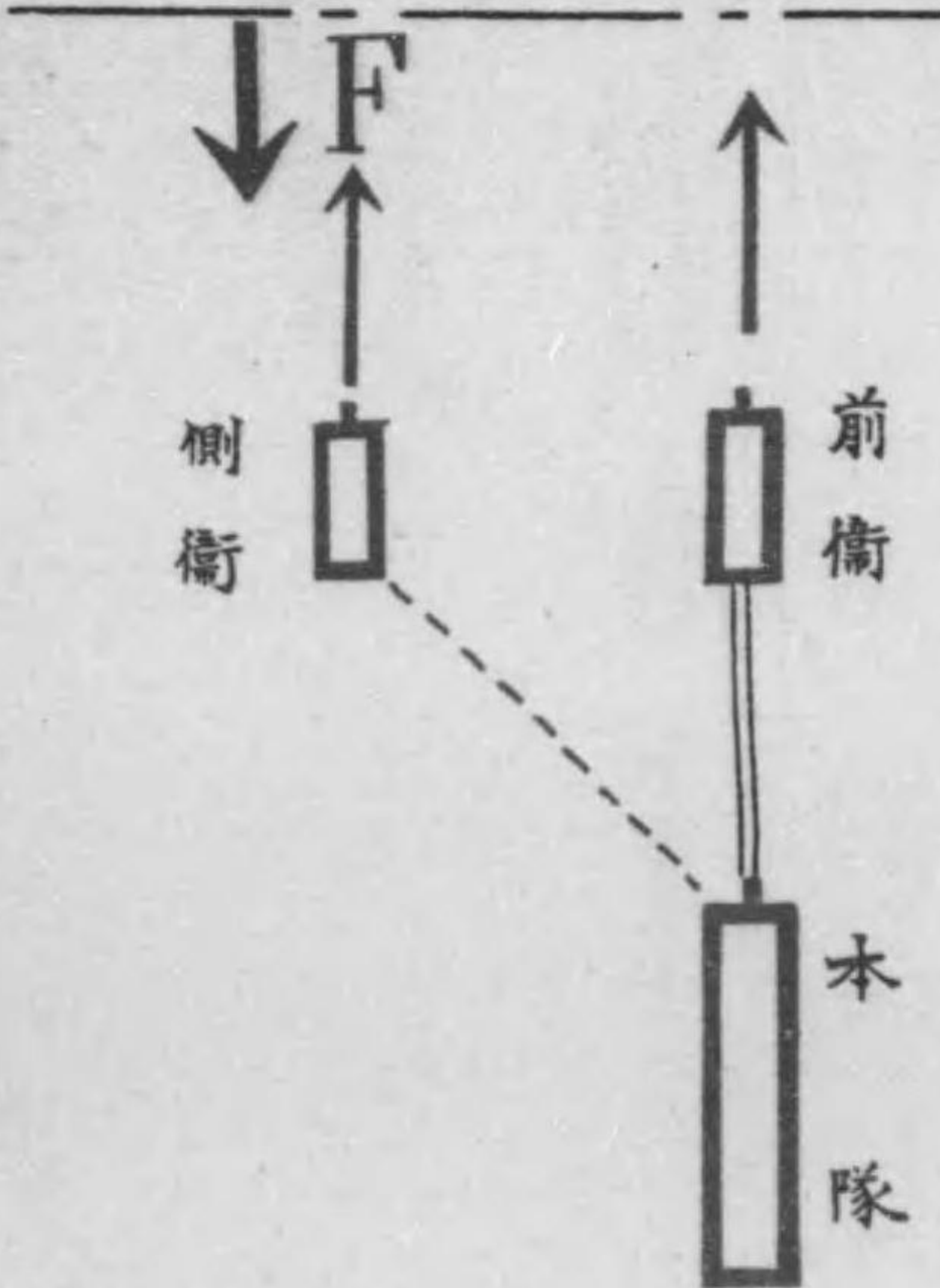
以上ノ距離ハ敵ト衝突ノ際前衛本隊ヲシテ展開ヲ爲スノ時間ヲ
得セシムルニ在リ火兵敵ト衝突シタルトキ無抵抗ニ退却シテ前衛
本隊ノ線ニ到着スル時分前衛本隊ハ開進終リ在レハ可ナリ而シテ
之ニ其報告者カ前衛司令官ニ達スル迄約八九分ヲ要ス其距離七
〇〇米トスレハ

前兵ト前衛本隊トノ距離





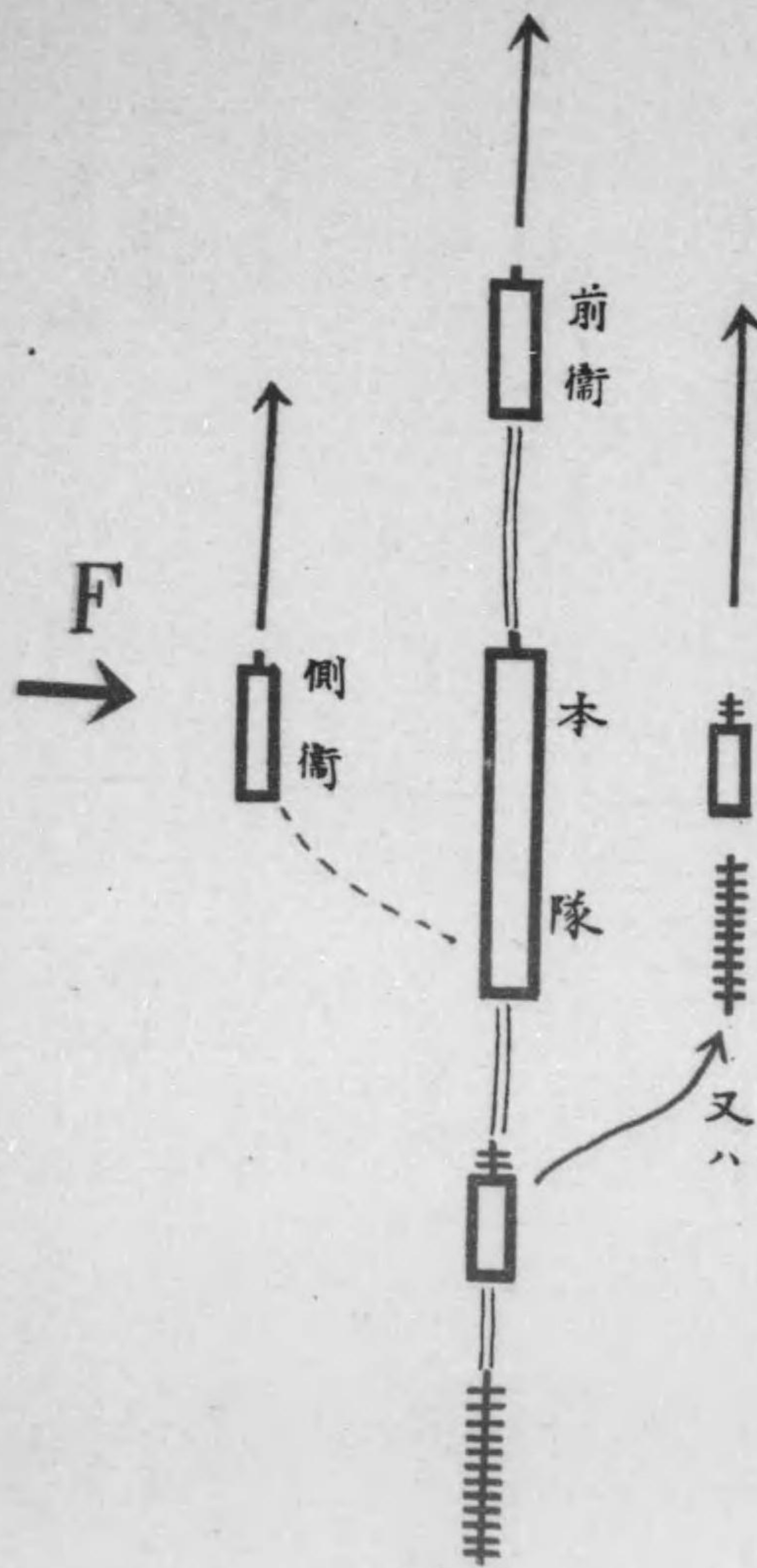
(二) 前衛ト本隊トノ中間ニ在ル場合



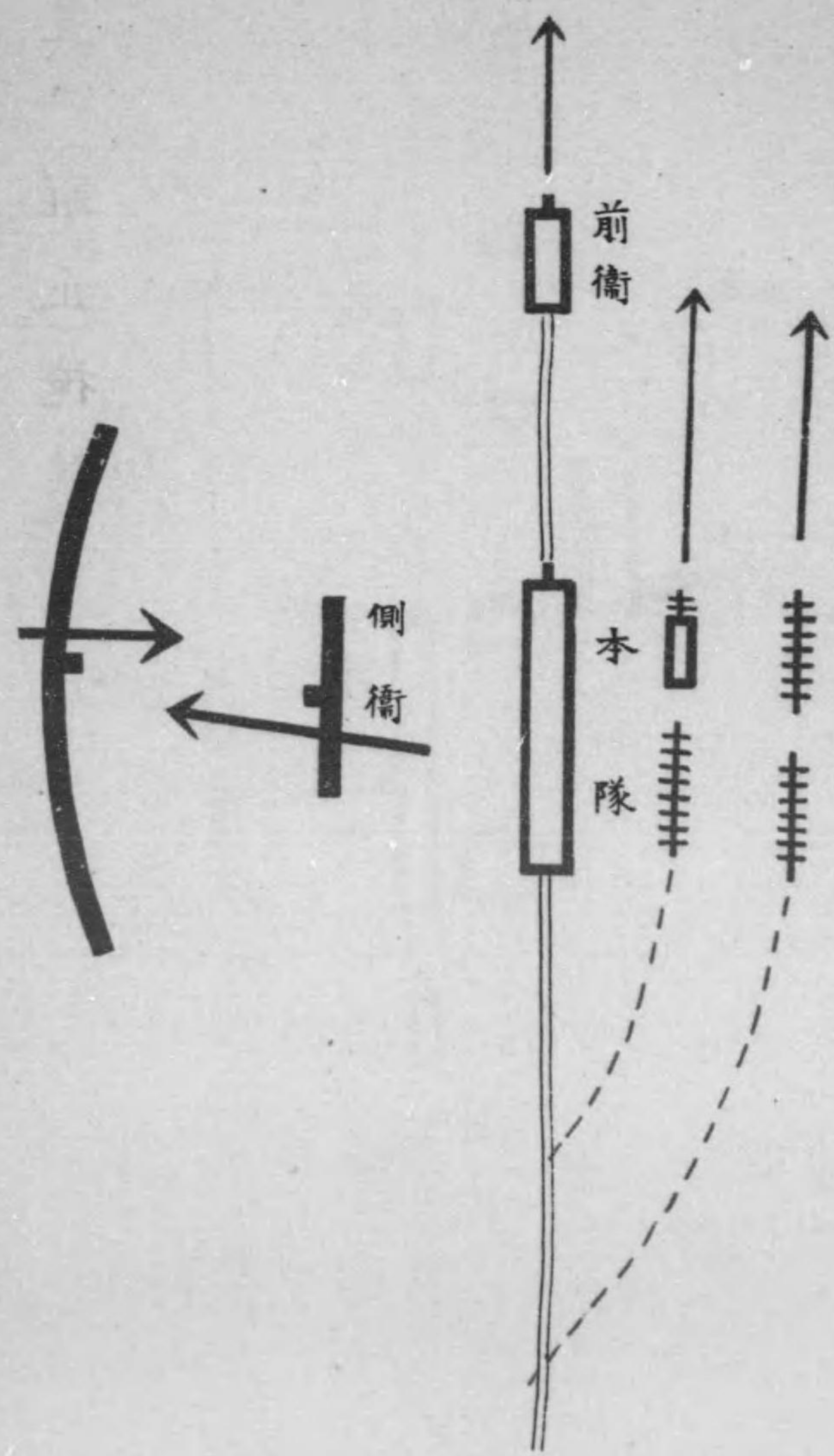
(三) 前衛ト齊頭面ニ在ル場合

其一、並進掩護 側衛ノ掩護法

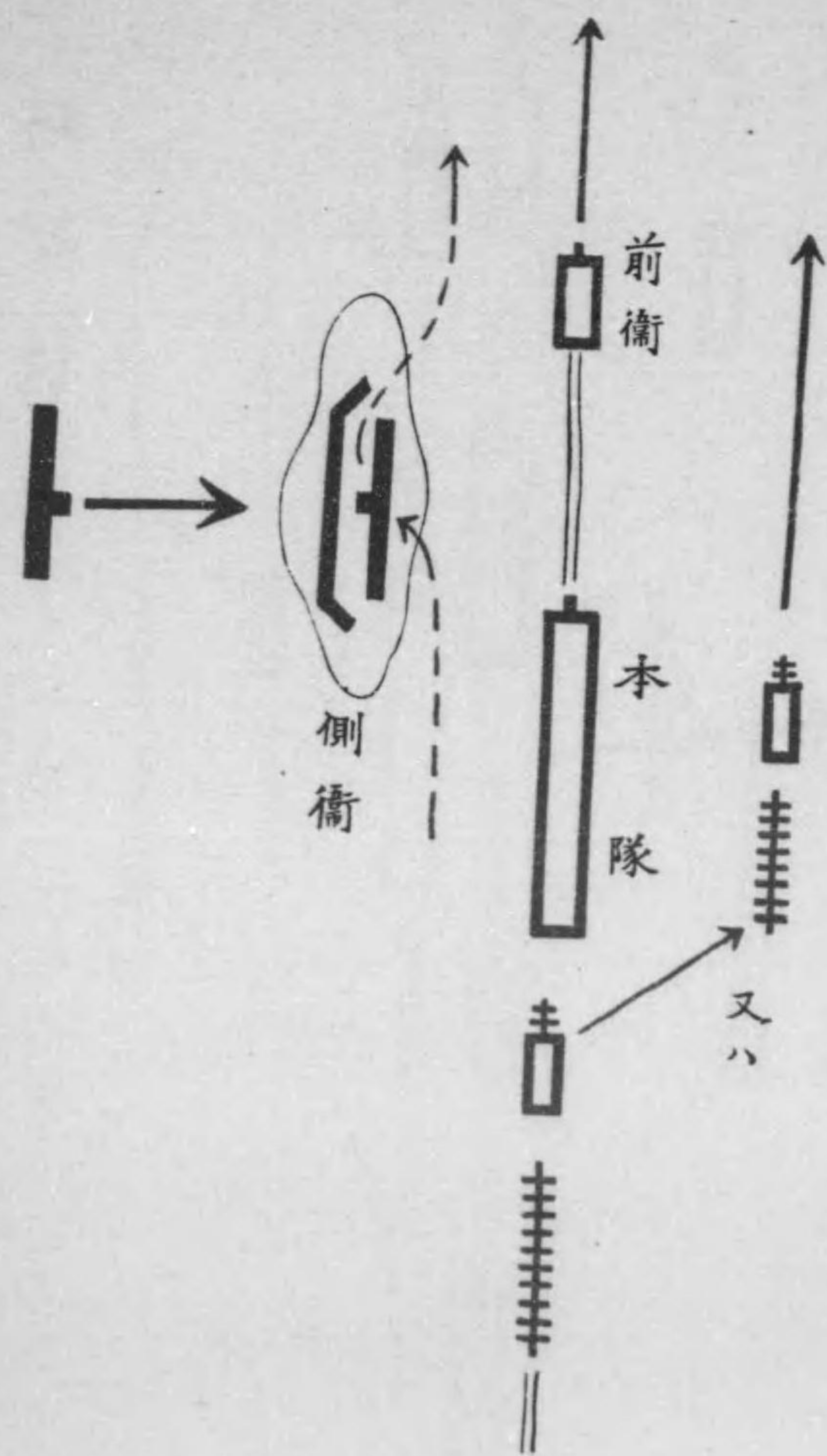
(一) 本隊ト齊頭面ニ在ル場合

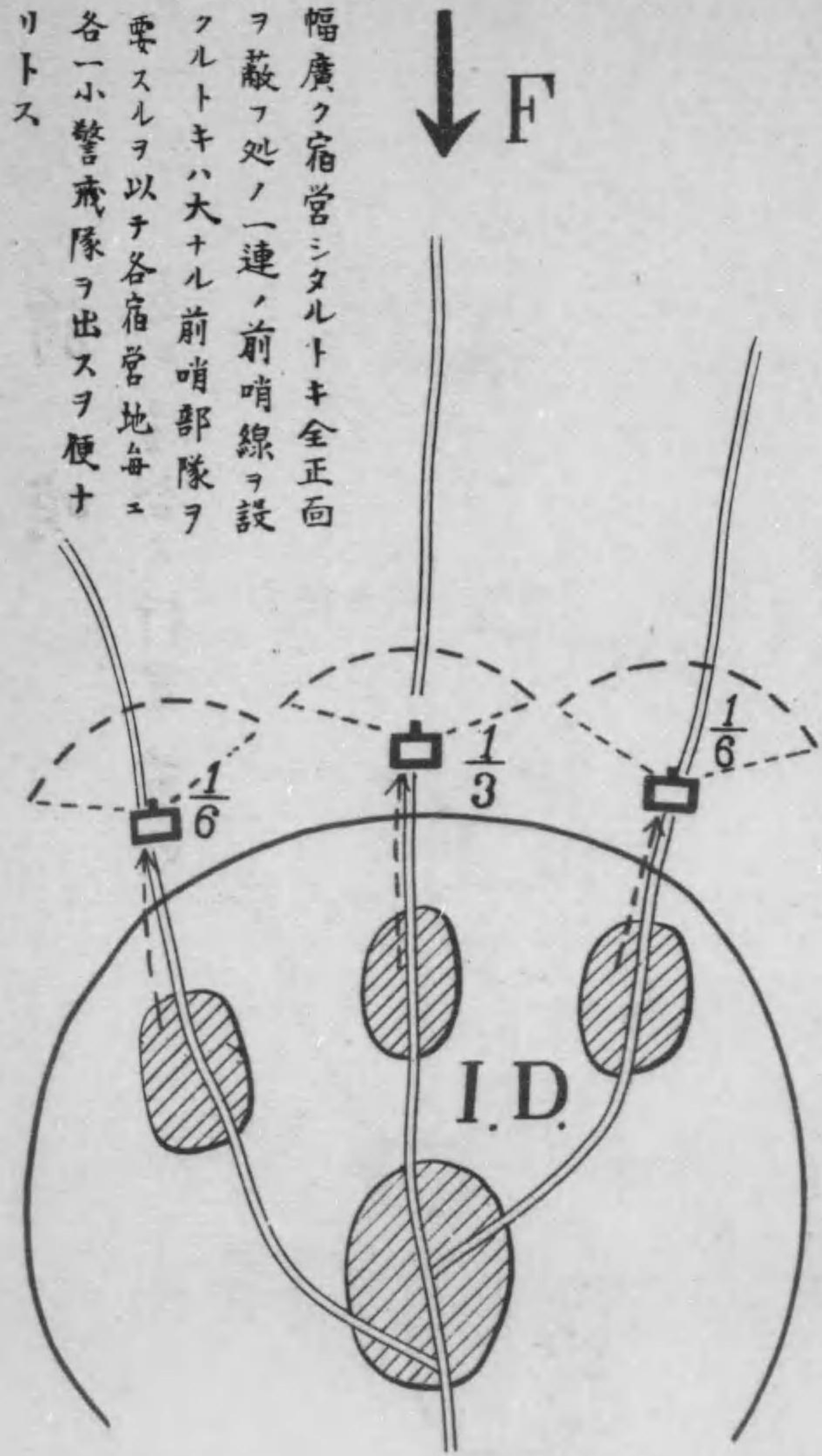


其三、陽擊掩護



其二、駐止掩護



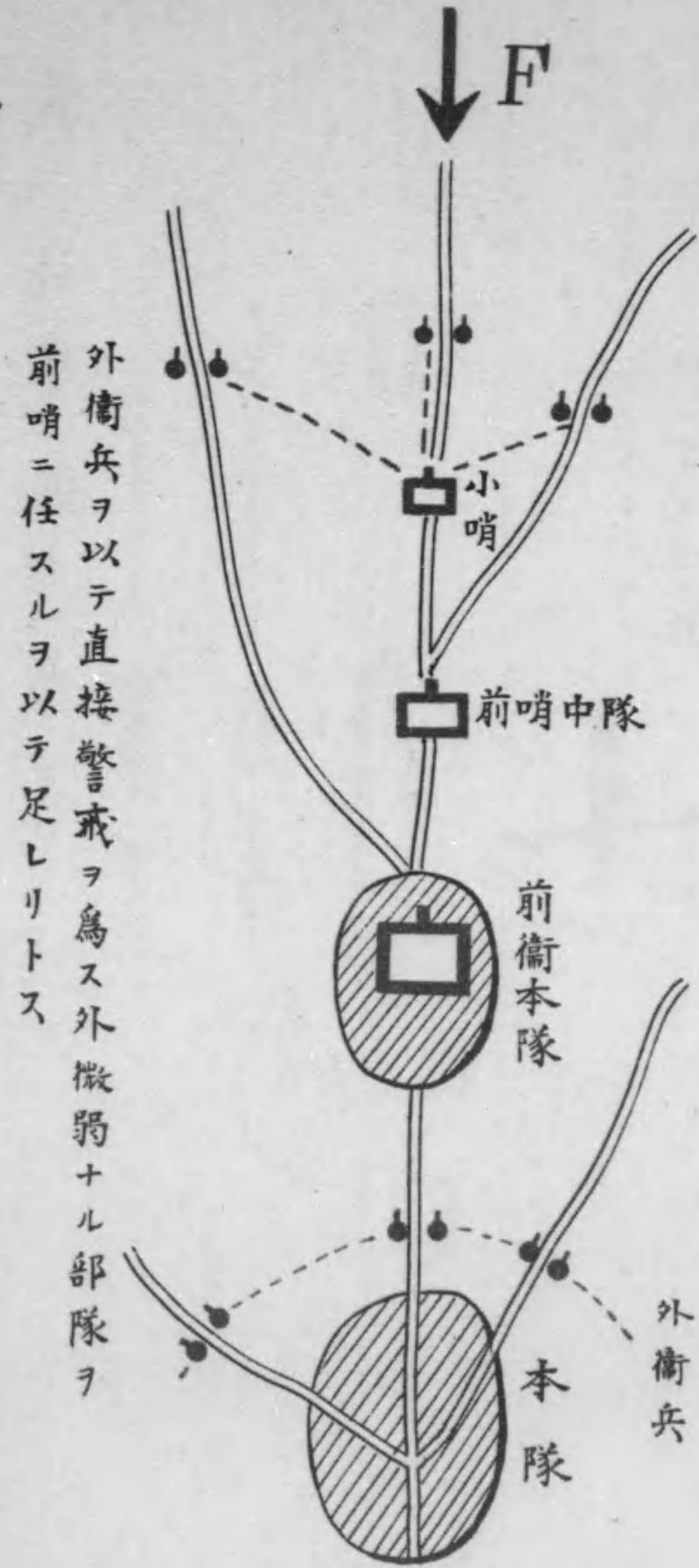


幅廣ク宿營シタルトキ全正面ヲ蔽フ処ノ一連ノ前哨線ヲ設クルトキハ大ナル前哨部隊ヲ要スルヲ以テ各宿營地毎ニ各一小警戒隊ヲ出スヲ便ナリトス

其二、各宿營地毎ニ警戒スル要領

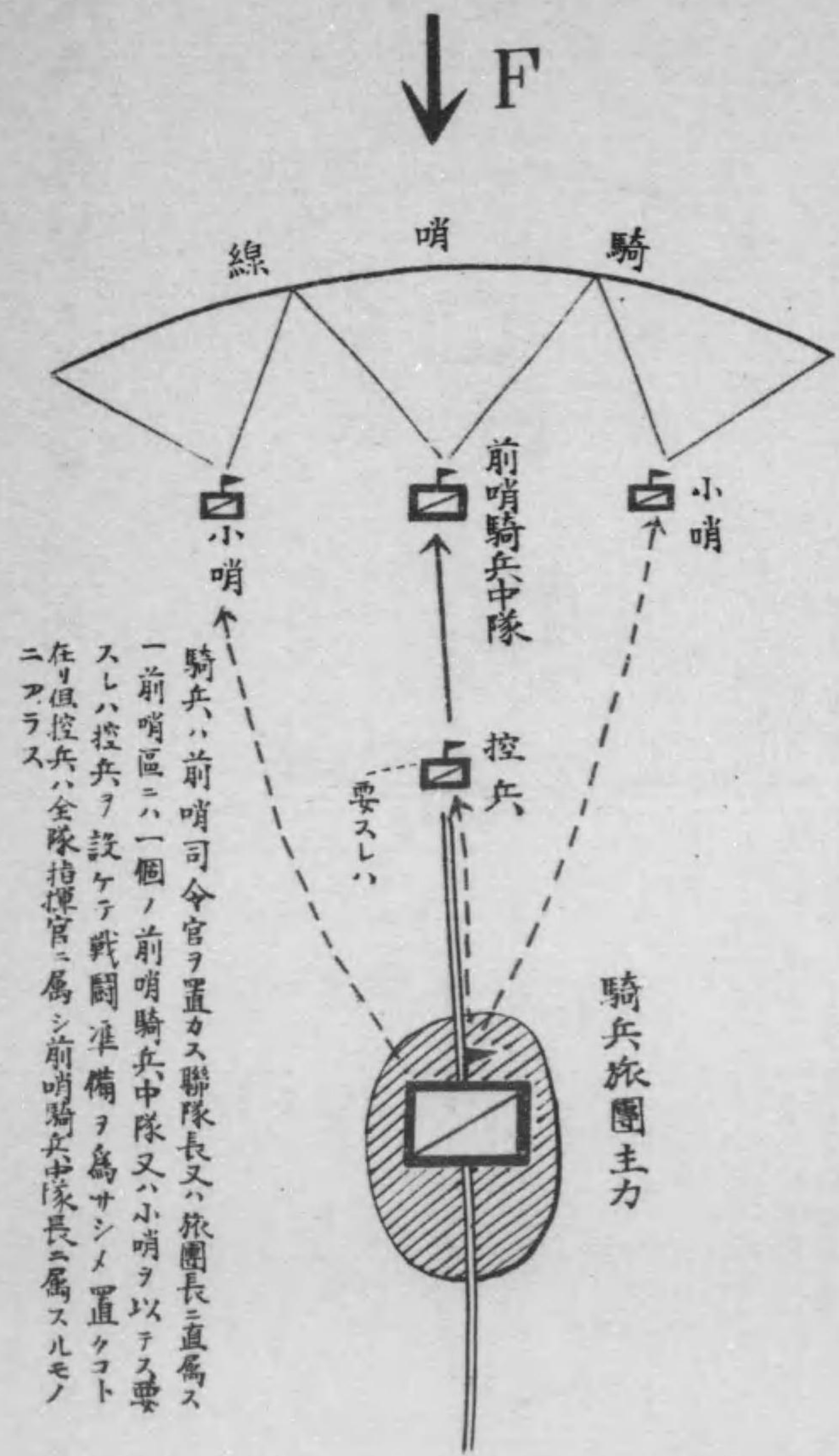
前哨

其一、敵ト遠キ場合ノ行軍前哨



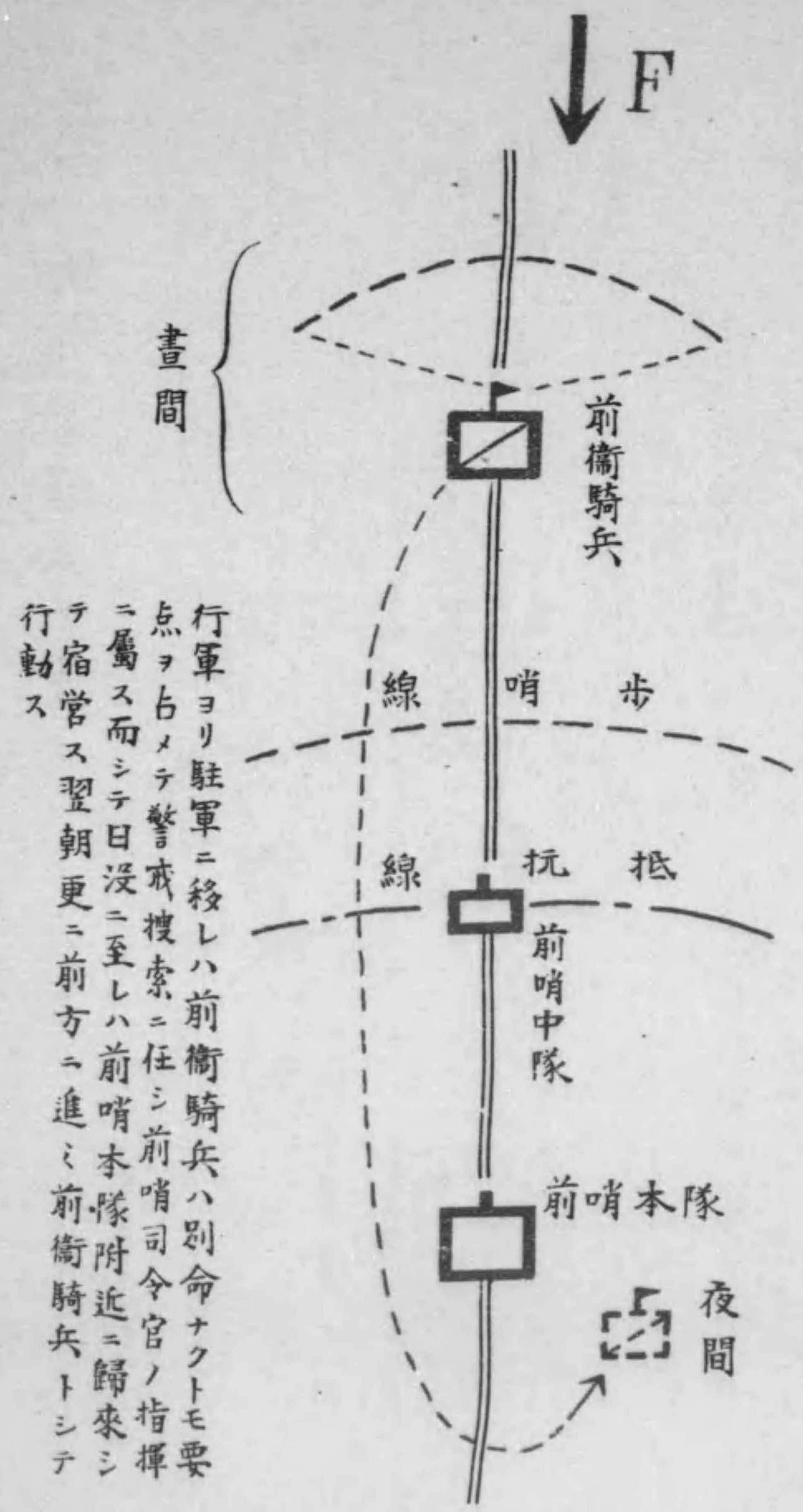
外衛兵ヲ以テ直接警戒ヲ爲ス外微弱ナル部隊ヲ前哨ニ任スルヲ以テ足レリトス

其四、獨立セル騎兵ノ前哨



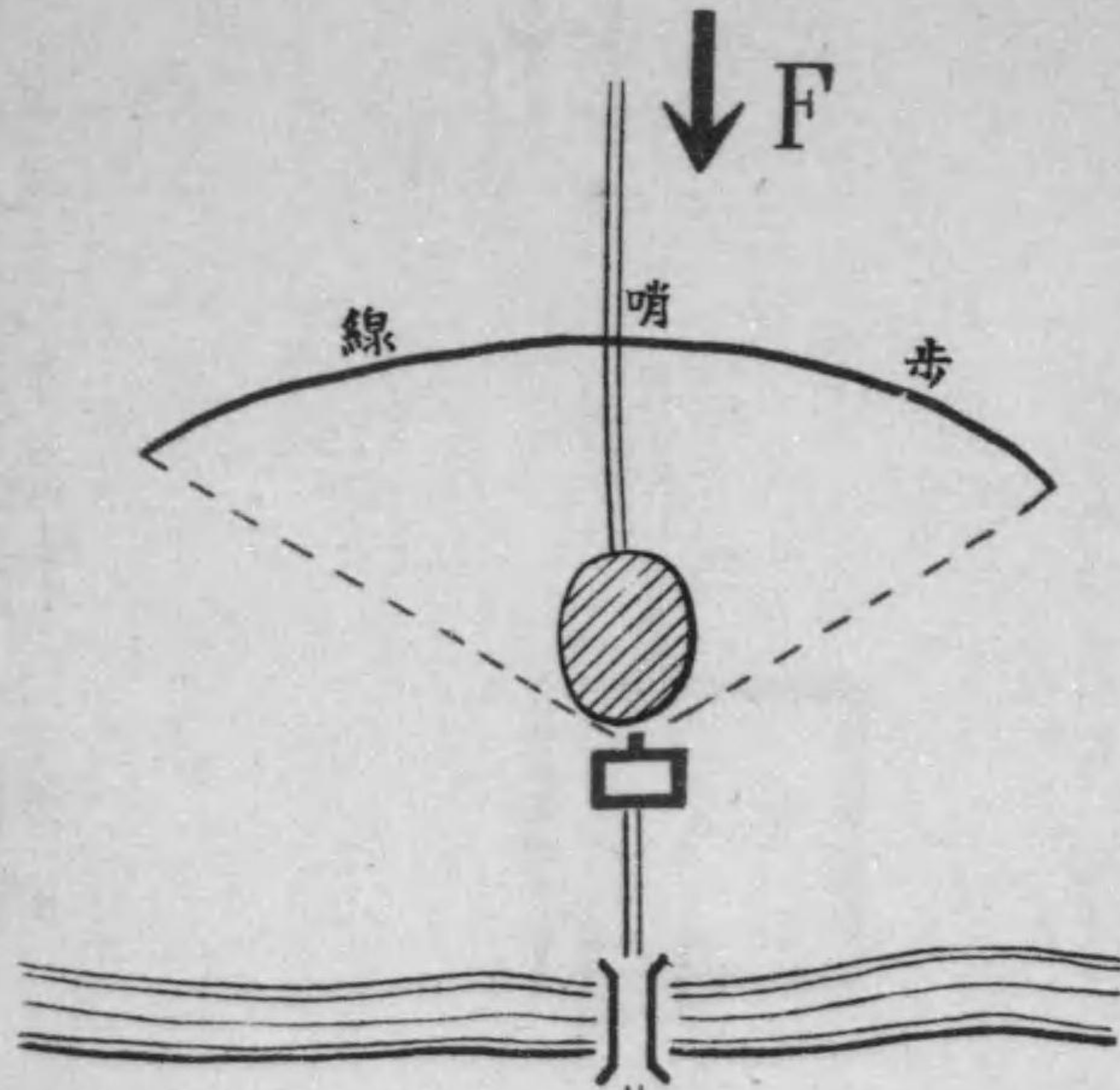
騎兵ハ前哨司令官ヲ置カス聯隊長又ハ旅團長ニ直屬ス
一前哨區ニハ一個ノ前哨騎兵中隊又ハ小哨ヲ以テス要
スレハ控兵ヲ設ケテ戰鬪準備ヲ爲サシメ置クコト
在リ但控兵ハ全隊指揮官ニ屬シ前哨騎兵中隊長ニ屬スルモノ
ニアラス

其三、夜間ノ前衛騎兵

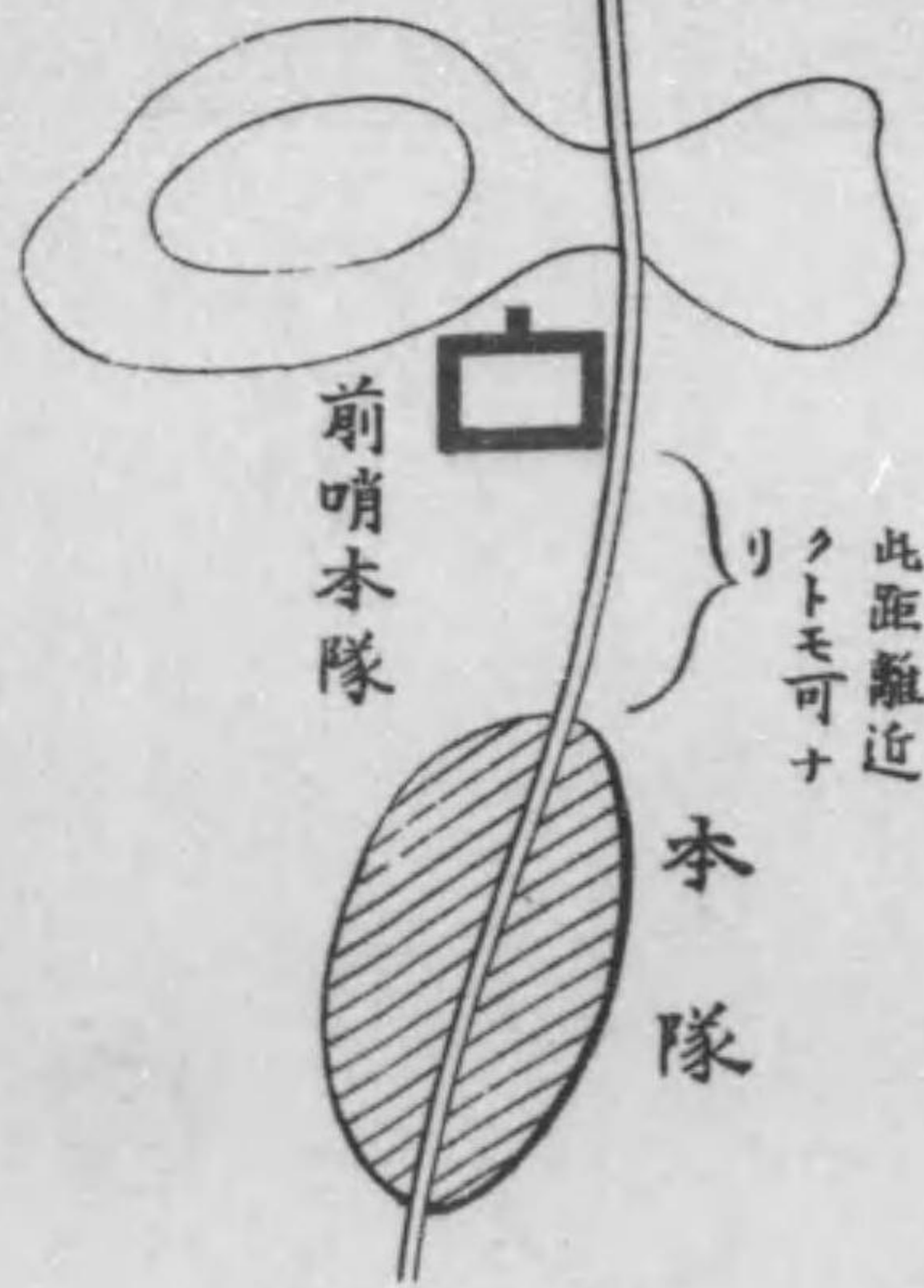


行軍ヨリ駐軍ニ移レハ前衛騎兵ハ別命ナクトモ要
点ヲ占メテ警戒搜索ニ任シ前哨司令官ノ指揮
ニ屬ス而シテ日没ニ至レハ前哨本隊附近ニ歸來シ
テ宿營ス翌朝更ニ前方ニ進ミ前衛騎兵トシテ
行動ス

其六、退却行卜前哨



退却ノ場合ニ在リテハ要スレハ本隊トノ距離短縮スルモ歩哨ヲシテ直接隘路ノ附近ヲ守備セシムルヲ利トスルコトアリ

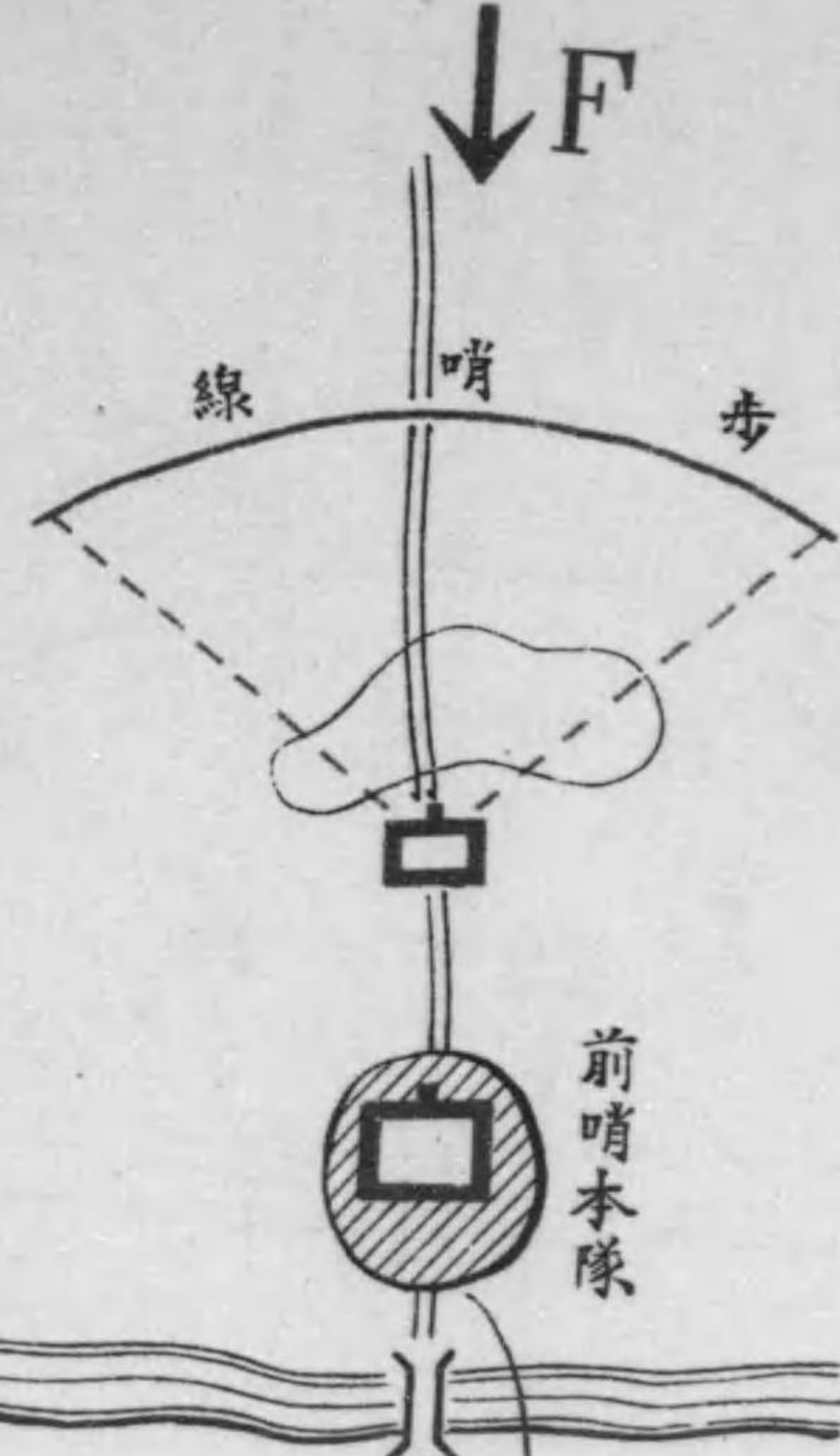


此距離近
クトモ可ナ
リ

前哨本隊

本隊

其五、前進行卜前哨



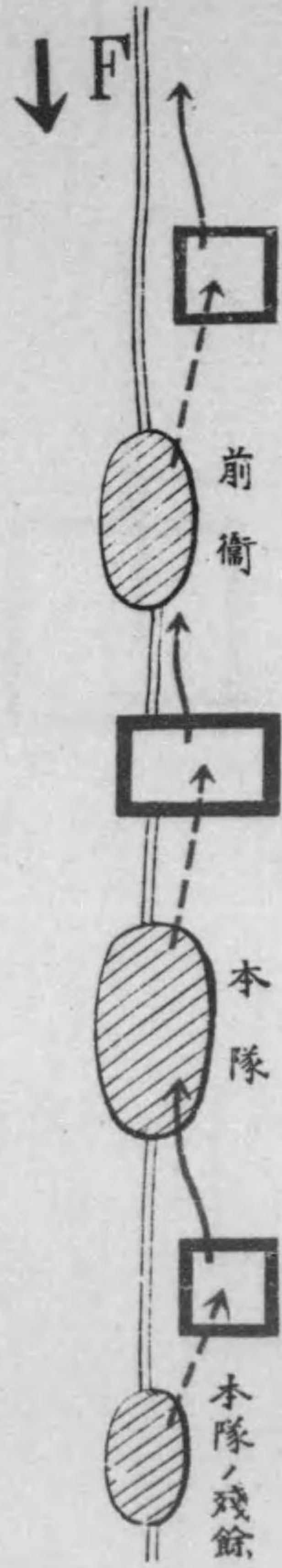
翌日前進ノ目的アルトキハ前哨ト本隊トノ距離稍々遠大ナルモ隘路進出ノ掩護陣地附近ニ位置セシム

此距離遠
大ナルモ可

前哨本隊

本隊

大部隊且ツ行軍舎營シタルトキ適用セラル

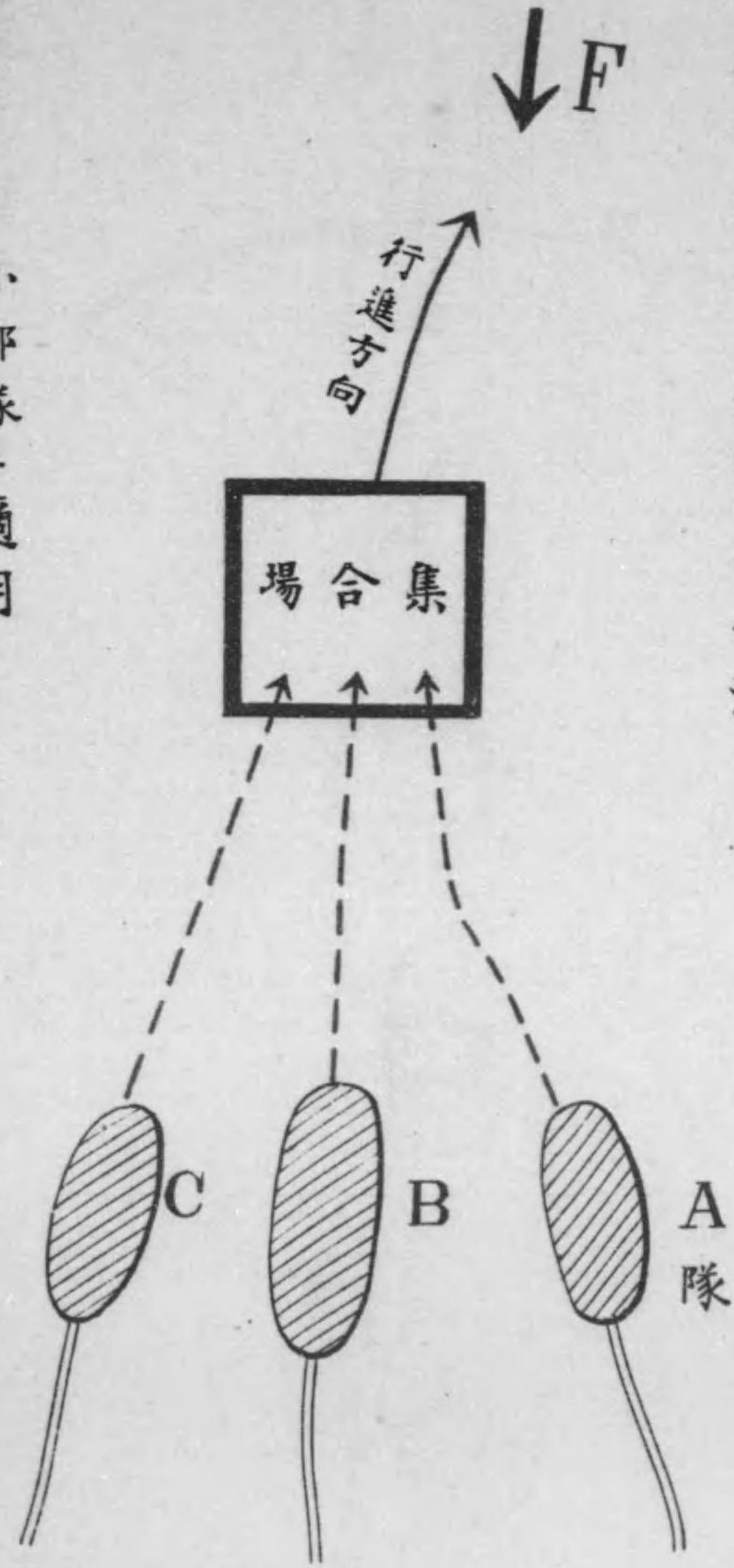


其二、部隊毎ニ集合法

行軍

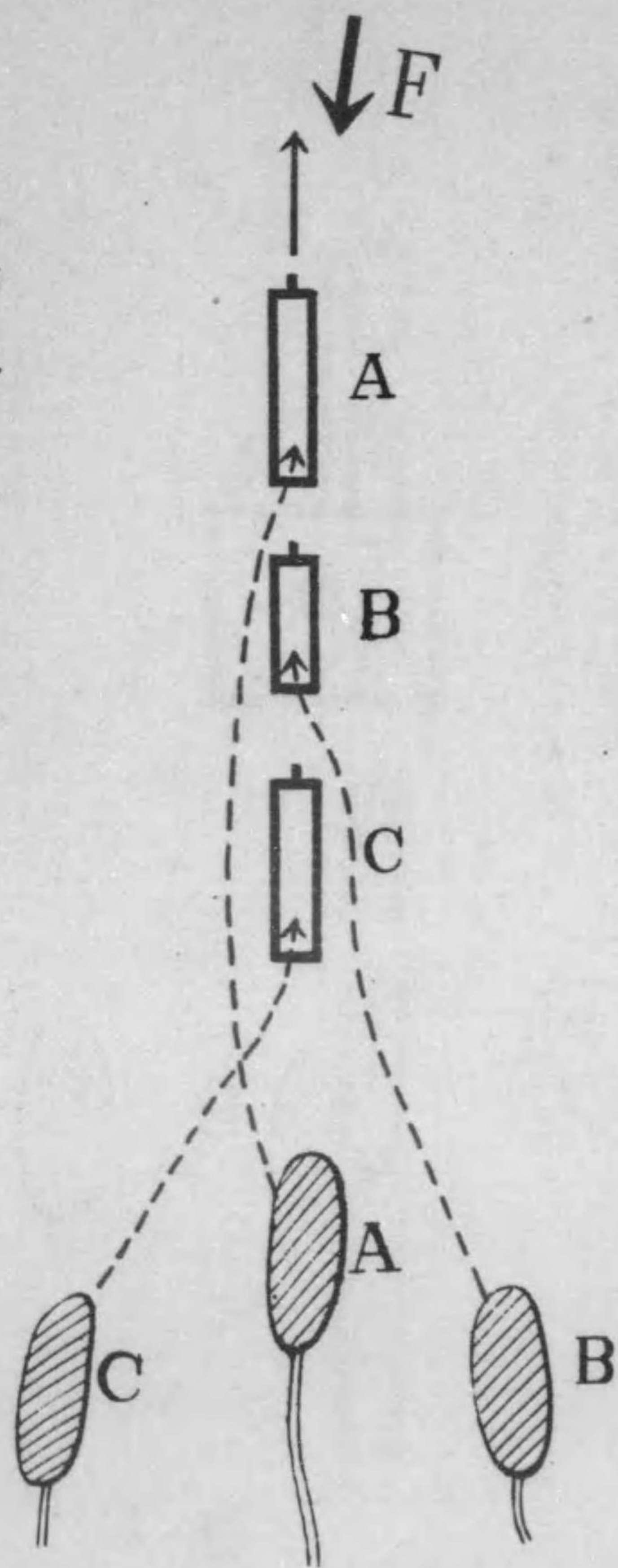
其一、一地ニ軍隊集合法

小部隊ニ適用



其四 路上集合法

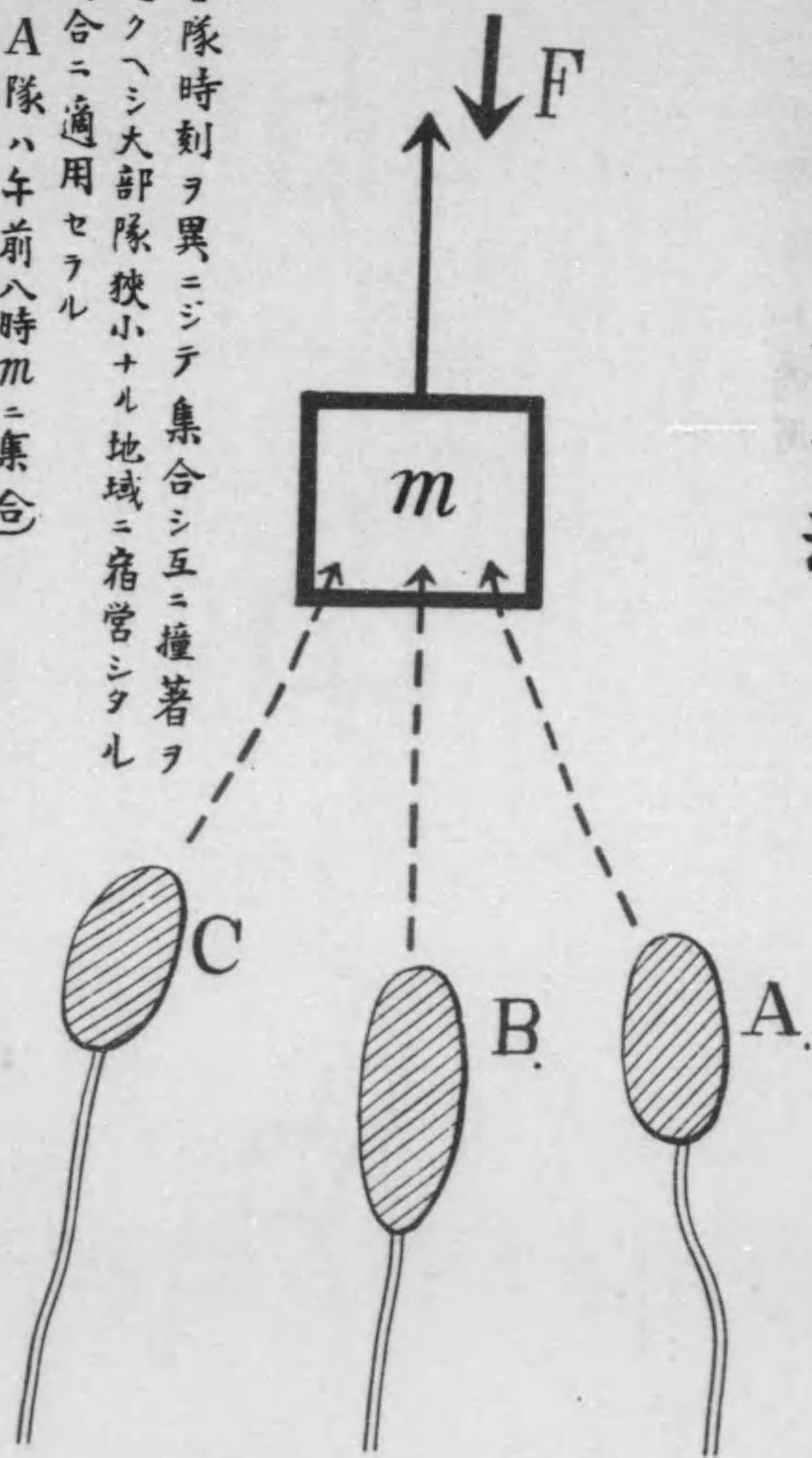
小部隊ニ適用

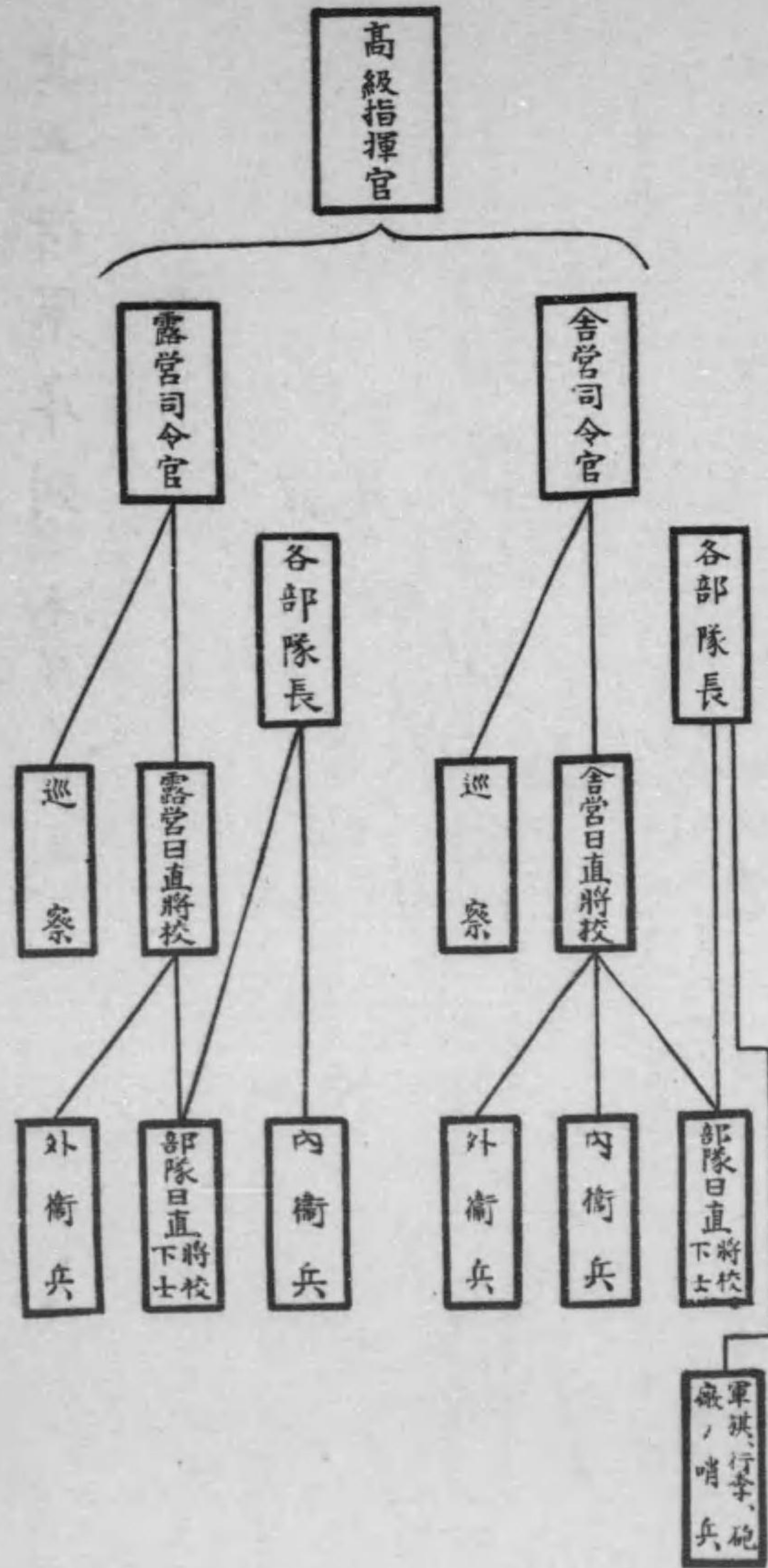


其三 逐次集合法

各隊時刻ヲ異ニシテ集合シ互ニ撞著ヲ
 避クヘシ大部隊狭小ナル地域ニ宿営シタル
 場合ニ適用セラレ
 A 隊ハ午前八時 m ニ集合
 B 隊ハ午前九時
 C 隊ハ午前十時

ノ如クス之カ爲例ヘハA 隊ノ長控ト其宿营地ト m トノ
 距離、速度トヲ計算シテ時間ヲ定ムヘシ



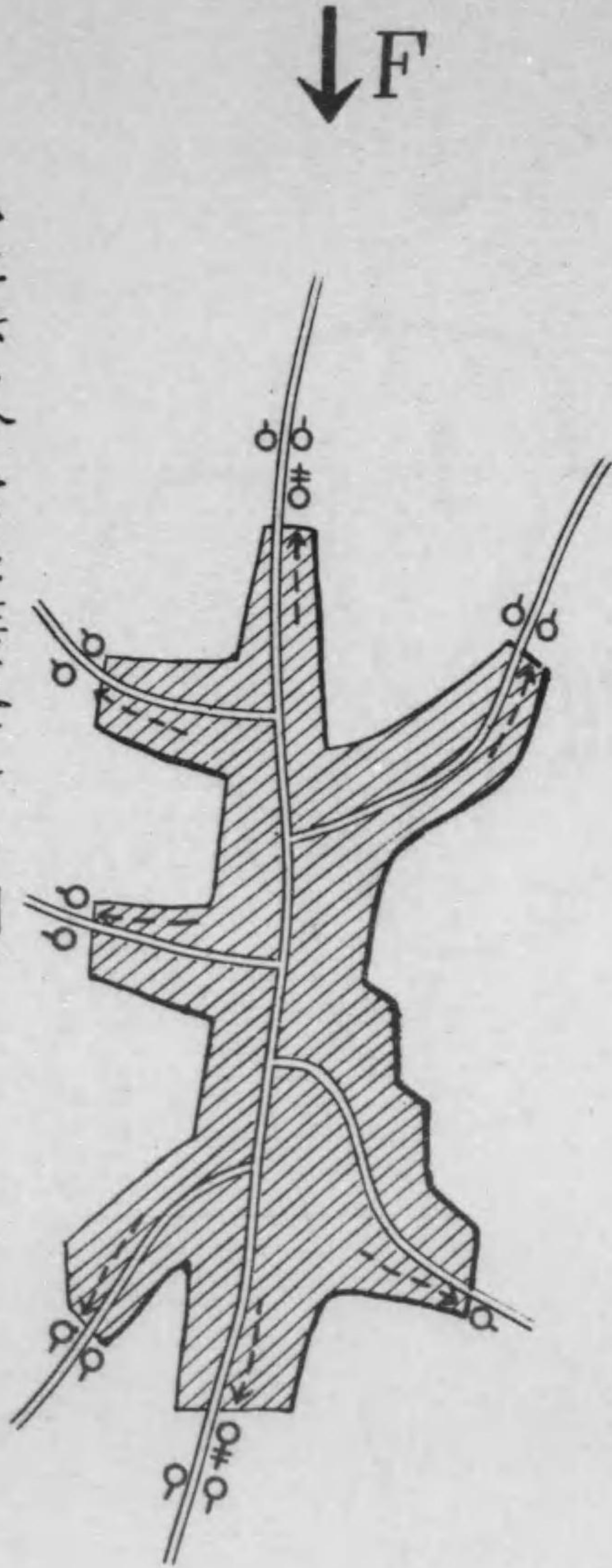


其一、宿營勤務ノ系統



其五、行軍序列 (本隊ノ後尾)

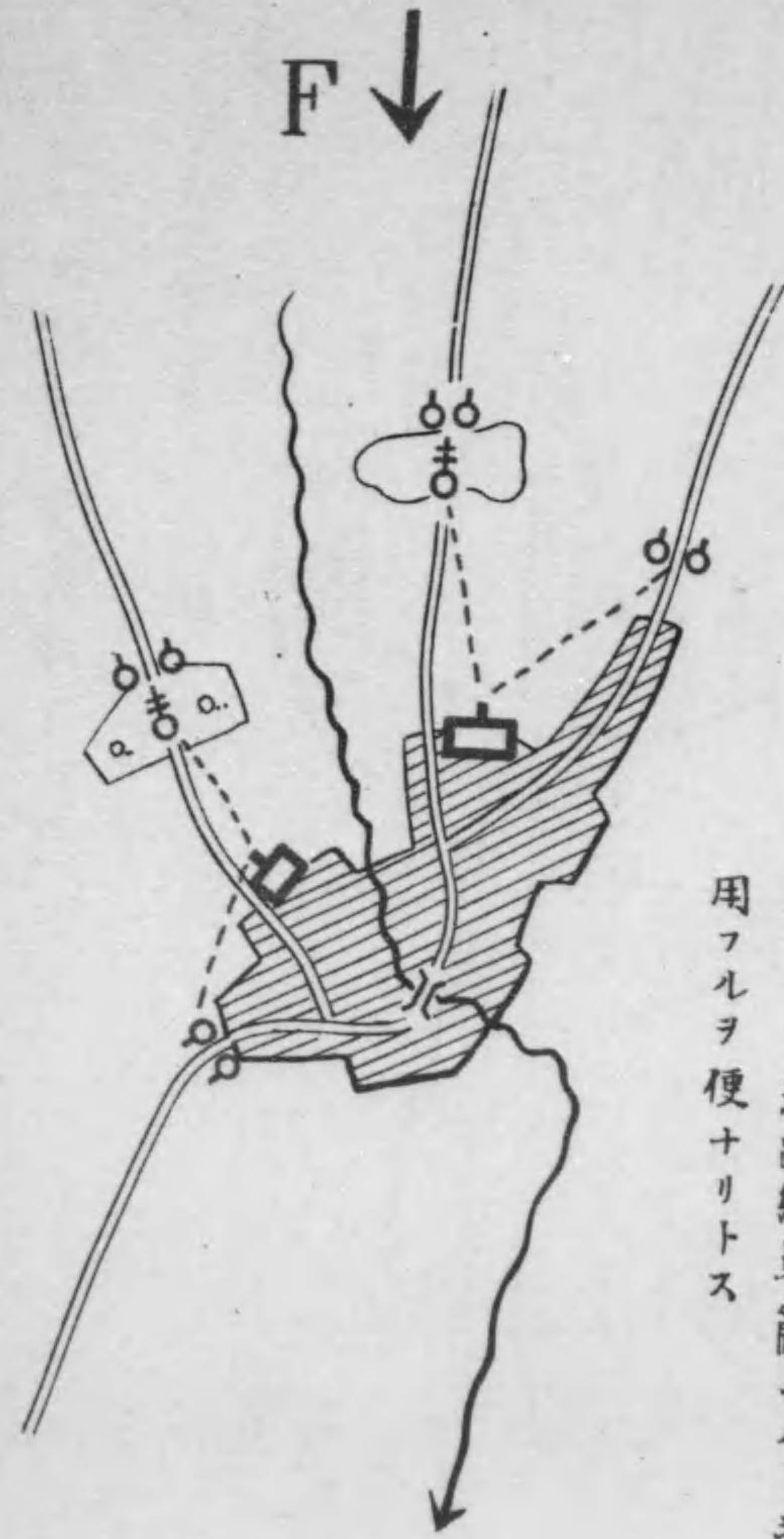
▲此法ハ舎營區廣大ナルトキ用フ
尚以上ニ式ノ外(一)ノ混成及内衛兵ヲシテ
兼ネシムル法モアリ



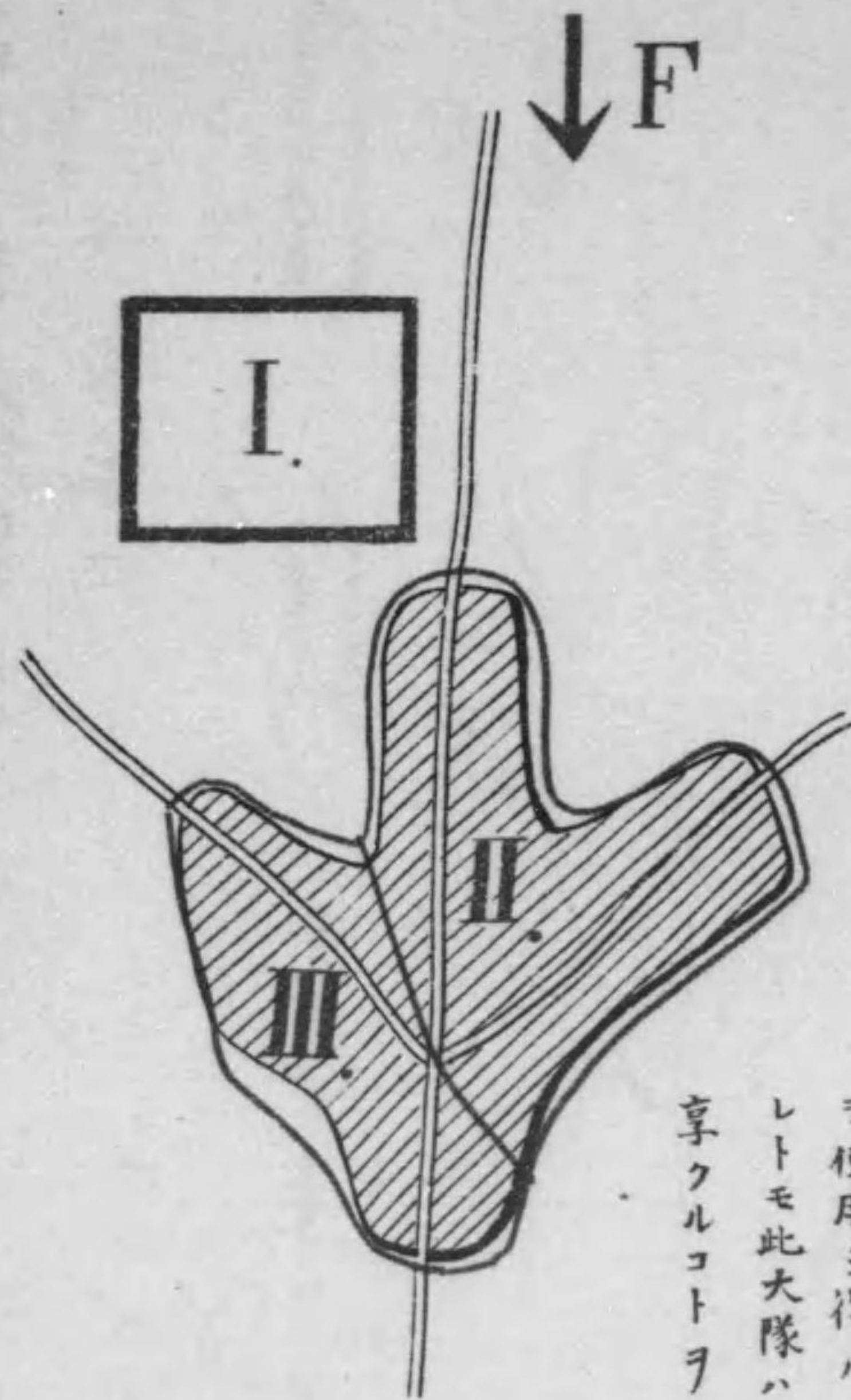
(二) 各出口近傍宿營部隊ヨリ出サシム

其二、外衛兵ノ配置

(一) 小哨配置ノ要領



此法ハ舎營區緊縮シ且ツ部隊
大ナラス道路網單簡ナルトキ
用フルヲ便ナリトス

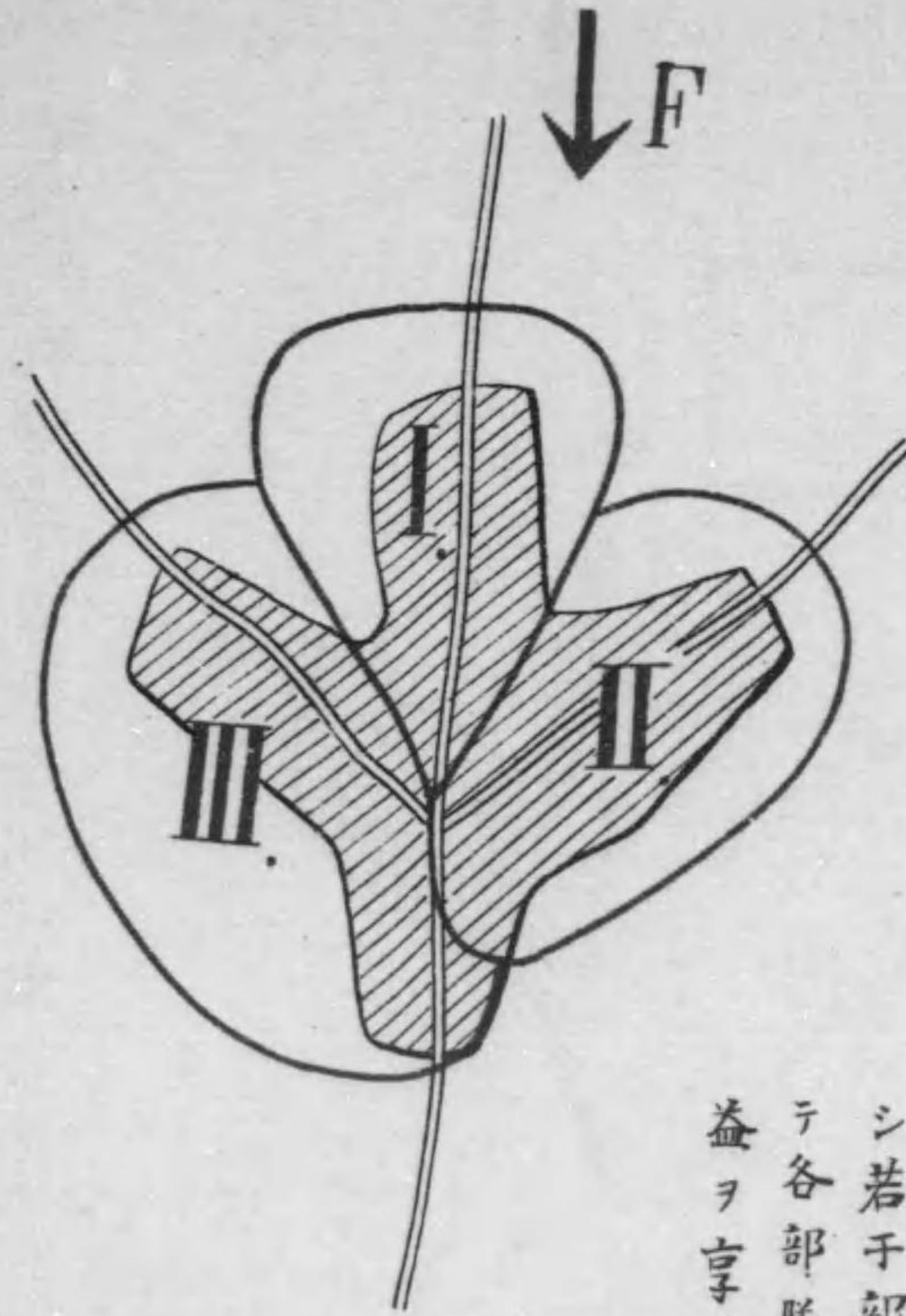


(二) 戰術本位

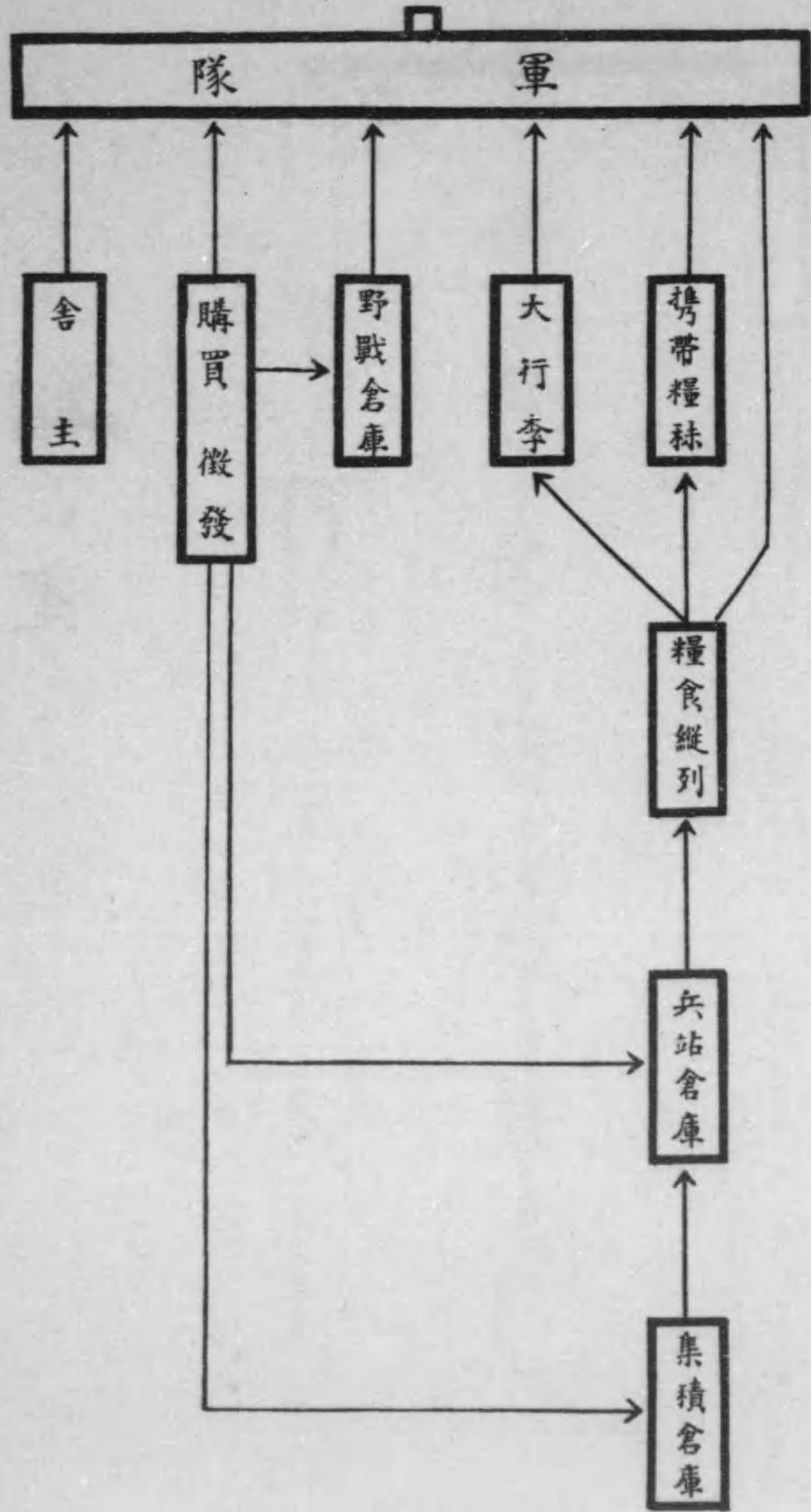
I、ハ純然タル露管ナルヲ以テ緊急ニ際シテハ直ニI、ヲ使用シ得ルヲ以テ戰術上利アレトモ此大隊ハ休養上ノ利毫モ享クルコトヲ得ス

其三、村落露管

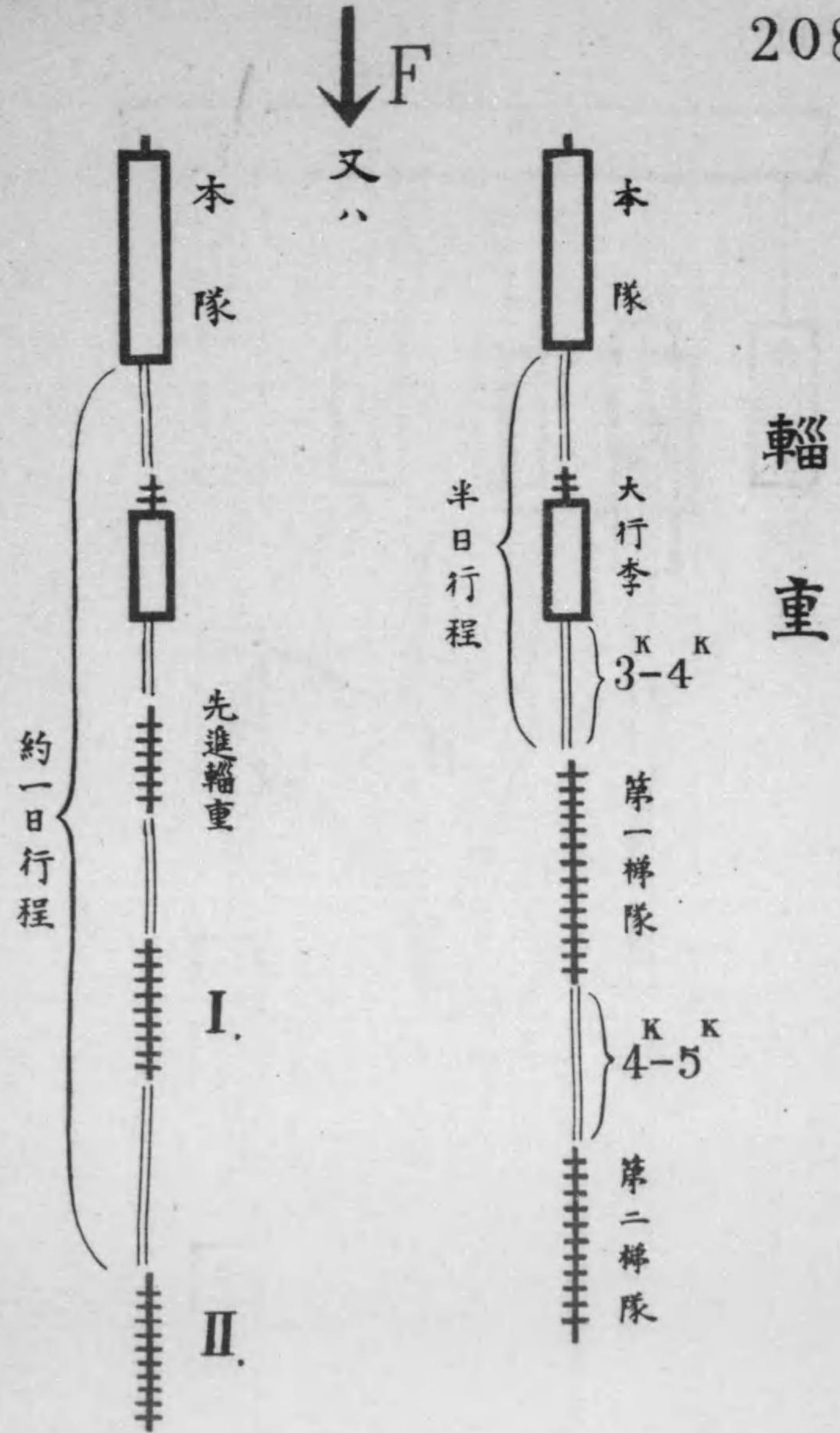
(一) 休養本位



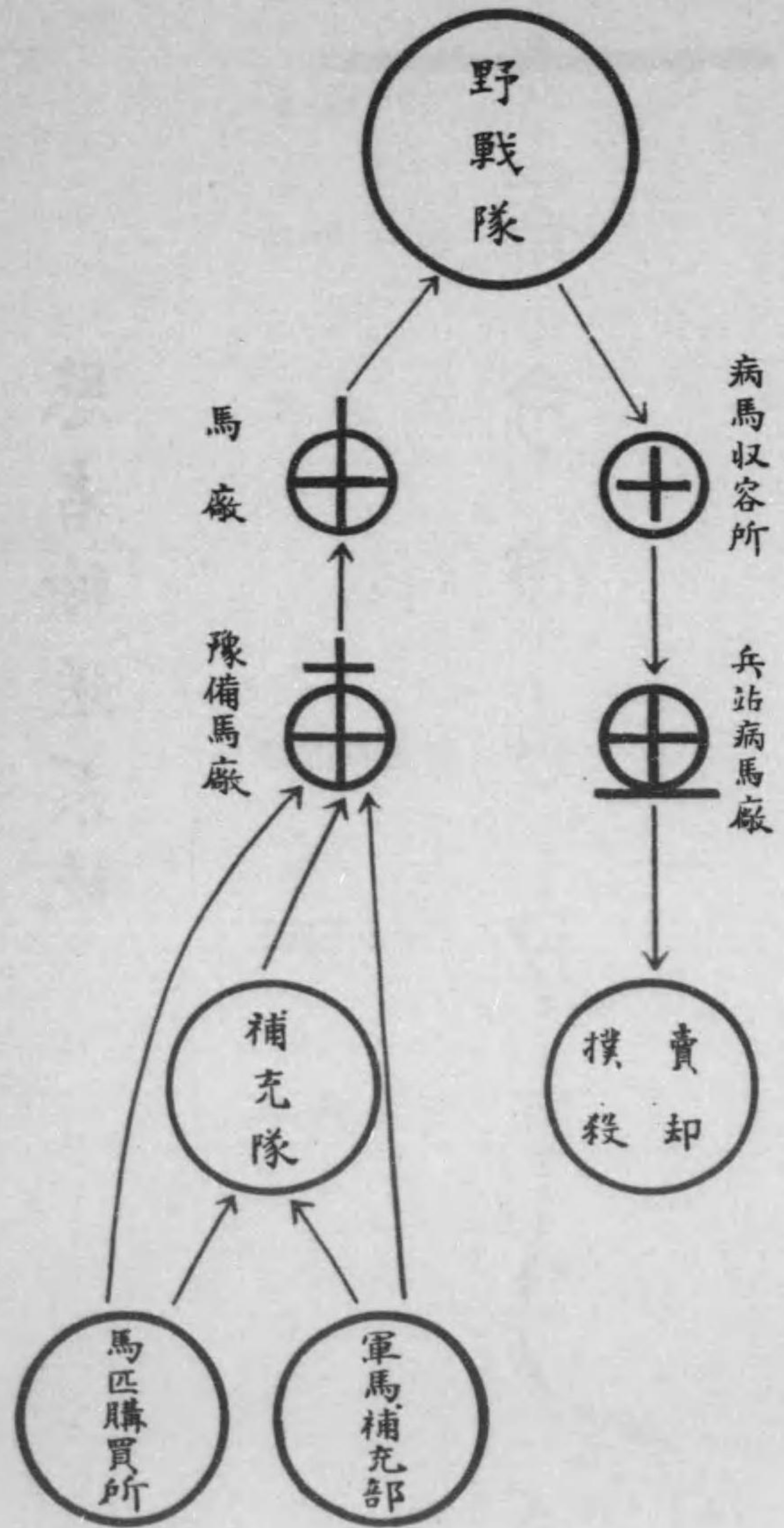
建制部隊ノ若干部ハ舍管シ若干部ハ露管スルヲ以テ各部隊平等ニ村落ノ利益ヲ享クルヲ得



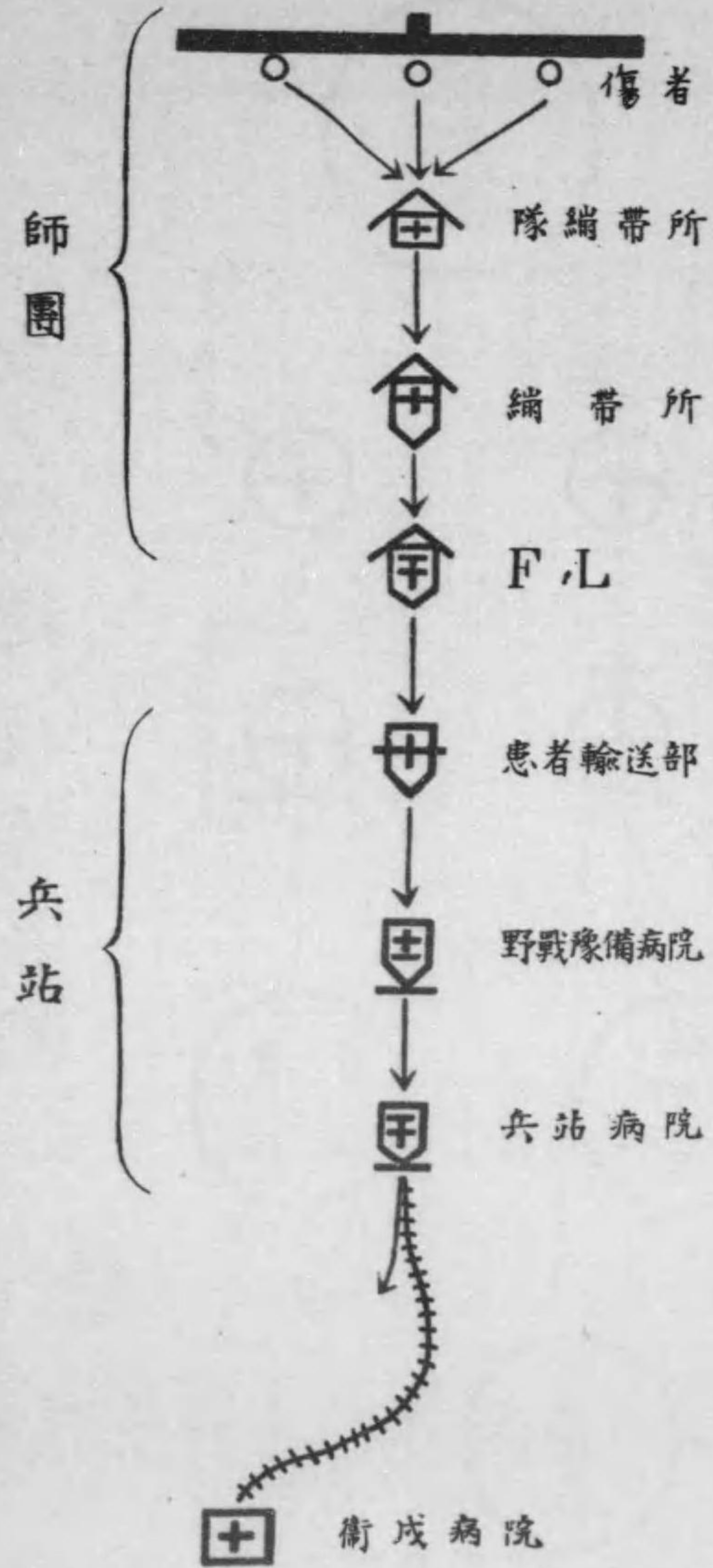
給養



輜重



馬ノ後送、補充系統



患者輸送系統

大正四年四月十三日印刷
大正四年四月十七日發行

(原則之圖示與付)

(正價金壹圓六拾五錢)



著者兼
發行者

東京市麴町區平河町四丁目十一番地

宮本林治

印刷者

東京市日本橋區久松町四十六番地

高山貞三郎

東京市麴町區平河町四丁目十一番地

發行所

宮本武林堂

振替口座東京一〇九二二番
電話番町五五一八番

陸軍士官學校校長 橋本勝太郎閣下序文
 陸軍士官學校教官 坂本政右衛門殿校閱
 陸軍士官學校教官 伊藤政之助殿講述

現地戰術

上下貳冊 製本洋布製
 插圖三百箇 紙數八百六十頁
 價貳圓 送料内地拾貳錢
 外地貳拾四錢

内 步、騎、砲單兵種ノ戰鬪 攻擊防禦
 追擊退却 夜間戰鬪 宿 營
 容 前哨 局地戰各種 諸偵察判斷

各作業ニ插圖(二百箇)
 ナ用ヒテ對照研究ニ便
 ナラシム

本書ハ最近陸軍士官學校生徒ノ爲實施セラレタ
 ル現地戰術ノ輯録ナリ。其設想實際、指導適切、說

明穩健、纂輯嶄新ナル共ニ異色アリ。而シテ其說
 ク所時ニ精神的方面ヨリシ、或ハ教育上ノ見地ヨ
 リシ、又ハ戰史ノ例證ヨリシ、乃至ハ常識ノ判斷ヨ
 リシテ推シテ戰術トノ調和ヲ律ス。
 ナチ戰術研究者及將校團教育並精神修養上無二ノ好參
 考書ナリ。

陸軍士官學校將校集會所發行

取扱所 東京麹町區平河町四丁目 講 兵 堂
 振替東京第八五七一番
 特約 東京麹町區平河町四丁目 宮本武林堂
 振替東京第一〇九一二番

T 氏 著

步兵中隊戰鬥教練

菊判洋布製
價 六拾錢
郵稅 八錢

內

總論—中隊戰鬥教練ノ根本義—計畫—計畫ノ素因。計畫ト實施ノ關係。教育量。使用時日。地形。空包。想定……—實施(指導法。教練ノ活

容

氣。射擊指揮。援隊)—講評—計畫實施ノ範例—結論—附表(中隊戰鬥教練ニ於テ教育スヘキ事項。第二期中隊戰鬥教練教育計畫表。同上細目教育計畫表)—引用附圖(青山。代々木練兵場五千分ノ一圖)

本書ハ教育家トシテ。戰術家トシテ。射擊家トシテ。且ツハ所謂精神家トシテ常ニ世人ノ。而シテ軍隊ノ模範テウ名聲ヲ恣ニセシ

T 氏ノ著ニ係ル權威アル罕觀ノ一書ナリ。其說ク所ノモノ。中隊戰鬥教練ノ根本主義ヨリ其實施計畫ノ細目ニ至ル迄順ヲ逐ヒ序ヲ尋ネ幾多ノ實驗ト統計トニ鑑ミ。解シ易ク且ツ直ニ實施シ得ル如ク懇篤細說到ラサルナシ。正ニ是レ大正現代ノ軍隊教育ニ向テ最モ大ナル光明タルト共ニ最モ新ラシキ指針タルスンハアラス。由來中隊教練ニ關スル著書尠シトセサルモ本書ノ如キハ蓋シ空前ト云フヲ憚ラス。是レ敢テ世ノ中隊教育ニ任スル各官ハ勿論中隊以上乃至中隊以下ノ教育ニ參スル諸官ノ爲ニ座右ノ珍トシテ特ニ推獎スル所以ナリ。

世界萬國に比類なしと稱せらるゝ、「如風居士著」

戰史歩兵操典證解

全三冊

第一卷 綱目
第二卷 防衛及退却

第三卷 夜戰、持久戰、山地、河川、森林、住民地ノ戰闘、他兵種ニ對スル歩兵ノ所作

總紙數千三百餘頁
引證戰例戰話約六百條
戰圖實況繪畫六十葉
地圖戰圖大小五十二枚
菊版本綴洋布製最美本

揃一部 四圓五拾錢
每冊 壹圓五拾錢
内地郵稅 每冊拾貳錢

我國否々世界軍事界に破天荒なる趣味津々感興湧くが如き本書は、故乃木將軍が本書に題したる『くはし戈、ちたるのくにの、ものゝふの、あらみたまこそ、劍なりけれ』の精神を遺憾なく發揮したるものにして、操典の條項はこれあるが爲め頗る易解

にして、且つ由來無味乾燥に陥り易き操典は本書に依りて耽讀手を釋く能はざる好讀物と一變し了れり、即ち其意義を講釋する爲めには、銳利透徹快刀亂麻を絶つ底の筆鋒を揮ひ、極めて平易簡明に之が註釋を施したる上、更に其理由を證明するが爲めには、内外古今多數の戰例就中日露の最新戰役を、最も多く最も適切巧妙に引用し、一々不動如山の大鐵案を下し、一見其原則のよりて生ずる所以の根原を知得せしむる而已ならず、内外數十の戰時書報と有名なる戰畫の尤物多數を網羅し、之が説明に唐宋諸家及我國志士烈婦等の詩歌俳句を交へ、一層讀者の興味感激を甚深ならしめんと勉めたるは我日本は勿論殆ど世界萬國にも其比類を見ざる良著と稱するに躊躇せず。果せる哉本書を一讀せる、當時の英國大使館附武官ソマーヴィー
ル氏、佛國大使館附武官ベルタン大尉及獨國大使館附武官ベル子
ウキツ男爵は、何れも殆ど同一に過褒に近き大賛辭を贈りて、著者が多大の勞力に酬むられたり、又支那は頃者本書を其教科書に充つるの目的を以て漢譯成れりとの通報を受く。以て本書の價值知るべし。

今や世界的歡迎を受くる 『成仁武夫、無名戰士共著』

戦物語と繪
卷物と兼備
るせ

戦史評論

毎月一冊
出版

價

一冊 貳拾錢
郵税 貳錢
十冊前金二圓(無送料)
但シ十冊連續購讀者ニハ
第十回目發行ノモノト共
ニ表紙ヲ贈呈ス

既刊

第一卷

價 貳圓
送料 内地拾二錢
外地三拾錢

内容

定州騎兵戰
南林子戰
榆樹山戰
萬寶山戰

鳴綠江戰鬪其一
得利寺戰鬪其一
樣子嶺戰鬪

鳴綠江戰鬪其二
得利寺戰鬪其二
三塊石山夜襲

第二卷

價 貳圓
送料 内地拾二錢
外地三拾錢

内容

劍山附近攻略
永沼、長谷川兩騎兵隊ノ挺進
靈陽邊門附近防禦
寒坡嶺附近戰鬪

劍山附近防禦
橋頭附近戰鬪
爾靈山攻略

露軍騎兵營口挺進
十三里臺子附近戰鬪
弓張嶺夜襲

第三卷

大正四年一月より毎月一回刊行

其論は仲尼司馬遷に優るとも劣らず、以て遠慮會釋なく現存する諸指揮官に向つて至公至正にして且つ辛辣至極なる筆褒筆誅を加ふるに憚からず、其筆は銳利巧妙にして他の模倣すべからざるものあり、人の言んと欲する所を簡單明快に道破し盡す所全く癡姑の手を借りて痒きを搔くと一般、其書は實際實地を馳驅せる日露戰役陸軍省從軍畫伯石原白道氏の筆になり、殆んど全く眞に迫りて實戰其儘を眼前咫尺に見るが如し、宜なる哉我軍事界近來の快著として、陸軍大學校及各學校、軍隊、官衙に數千の愛讀者を有し、現に本評論を補導として日露戰史を研究せられつゝある拾數箇の將校團あるを知る、諸外國亦大に之を稱賛し大に之を歡迎しつゝあり、就中大英國陸軍省は大戦渦中に在るにも拘はらず、在本邦大使館に命じて本評論を翻譯急送せしめつゝあるは事實なり、以て本紙の價值知るべきなり。

適確簡潔ヲ以テ稱揚セラレツ、在ル「同志會著」

陣中要務詳解

全五册

總紙數千六百餘頁
菊一判價四圓貳拾五錢
每册價八拾五錢
內地郵稅(每册八錢)

- 第一卷 戰鬪序列、部隊間衛生、馬匹衛生、彈藥補充、通信、鐵道輸送、船舶輸送、兵站、憲兵、戰鬪詳報、陣中日誌、留守日誌
- 第二卷 搜索及諜報勤務、警戒勤務、行軍ノ警戒
- 第三卷 前哨
- 第四卷 宿營、行李、輜重、給養

適確簡潔ノ世評高キ本書ハ陣中勤務ノ原理原則ノ詳解ヲ經トシ、改正ノ要點ニ對スル釋義ヲ緯ト爲シ、之ニ參スルニ史實的ノ例證ヲ以テシタルモノニシテ「講兵」統裁官協力ノ下ニ、同志會諸官ノ分擔執筆及分科專門ニ屬スル事項ハ悉ク其專門家ノ筆ニ成ルモノナリ。

講兵會編纂

日、獨、露、佛 四國戰鬪原則對照

製本洋布製
四段組
價八十五錢
郵稅內地八錢 外地十二錢

本書ハ日、獨、露、佛四ヶ國ニ於ケル操典、戰術學教程、戰術學教科書、戰鬪教令及士官學校教程 中其粹ヲ拔キ、之ヲ各原則毎ニ類集對照シタルモノニシテ方今世界戰術ノ趨勢ヲ知得シ以テ歐洲大戰亂ノ互ニ一敗一勝ノ迹ヲ探究スル豈戰術界ノ最大快事ナラスヤ

各國機關銃研究書抄譯

機關銃ノ技術及戰術的評論

附各國機關銃兵備ノ情勢

製本洋布製
挿入銃書貳拾八箇
價壹圓參拾錢
郵稅內地八錢
外地十二錢

本書ハ編者カ獨逸駐在中ノ實驗ニ基キ列國陸軍省ニ於テ爲セ
ル最緊要ナル經驗並諸大家評論ノ抄譯ニ最新ノ情勢
ヲ加味シタルモノニシテ我軍事界斯銃研究ノ一大炬火タル
ヲ失ハス而モ現時ノ戰亂ト相對照シテ之ヲ研究セハ其利益ト興味ハ蓋シ尠
少ナラサルヘキヲ信ス

同志會編著

新舊對照 陣中要務令改正要領

價九拾五錢
郵稅內地八錢
外地十二錢

三段論法的ニ先ツ改正ノ眼目次ニ各篇中改正ノ主要點、
終リニ全條項ノ對照研究ヲ詳述シテ所謂簡ヨリ繁ニ入り理解ヲ
容易ナラシメタル而カモ所說適確對照正當ノ名聲ヲ獨占
セル本書ヲ一讀セラルルニ於テハ蓋シ本令改正ノ要義ハ逐一讀者ノ肯綮ニ
中リ釋然トシテ忽チ氷解スヘシ

講兵會編輯 (第三卷 每月一回發行 每號十二錢。半年六十五錢。一年壹圓二十錢)

講 兵

第一卷(十二册合本)

第二卷(十二册合本)

製本洋布製

價各卷一圓四十錢

郵稅各卷 內地十二錢 外地三十錢

本書ハ前後二十四ヶ月ニ涉リ甲想定ハ熊本及久留米一帯ノ地方、乙想定ハ伊丹及茨木ヲ中心トスル地方ニ於テ變化窮マリナキ攻防ノ術ヲ支隊ヲ用キ圖上ニ於テ論難研鑽シタルモノニシテ又間々難解若ハ誤解シ易キ**原則ノ解説**及有益ナル質議ノ應答ヲ掲載セリ應用戰術研究ノ爲メ絶好ノ資料ナリトス

NS 中隊長編述

實際的內務班長ノ著眼

四六版(研究用式)
價貳拾五錢
送料四錢

内 容
緒言 班員ノ儀表 上等兵ノ指導
命令 支隊 衛生 修理品ノ取扱 被服ノ保存
附 命 令 傳 達 衛生 三式歩兵銃ノ保存及手入法 被服保存手入法
古參兵ト新參兵 體質及氣質 兵器動作
班長ノ職務ノ施行ニ精細ナル準據ヲ與ヘ、以テ善良ナル效果ヲ收得セシム
ヘク**理想的**的某模範中隊ニ於テ、實施セラレツ、在ル事項ヲ秩序的ニ記述シタルモノニシテ、**理想**ニアラス空想ニアラス、**乃チ一言トシテ實際**ナラサルハナシ 寔ニ中隊附將校ノ爲メ最良ノ資料ナリ。

玄々居士編著

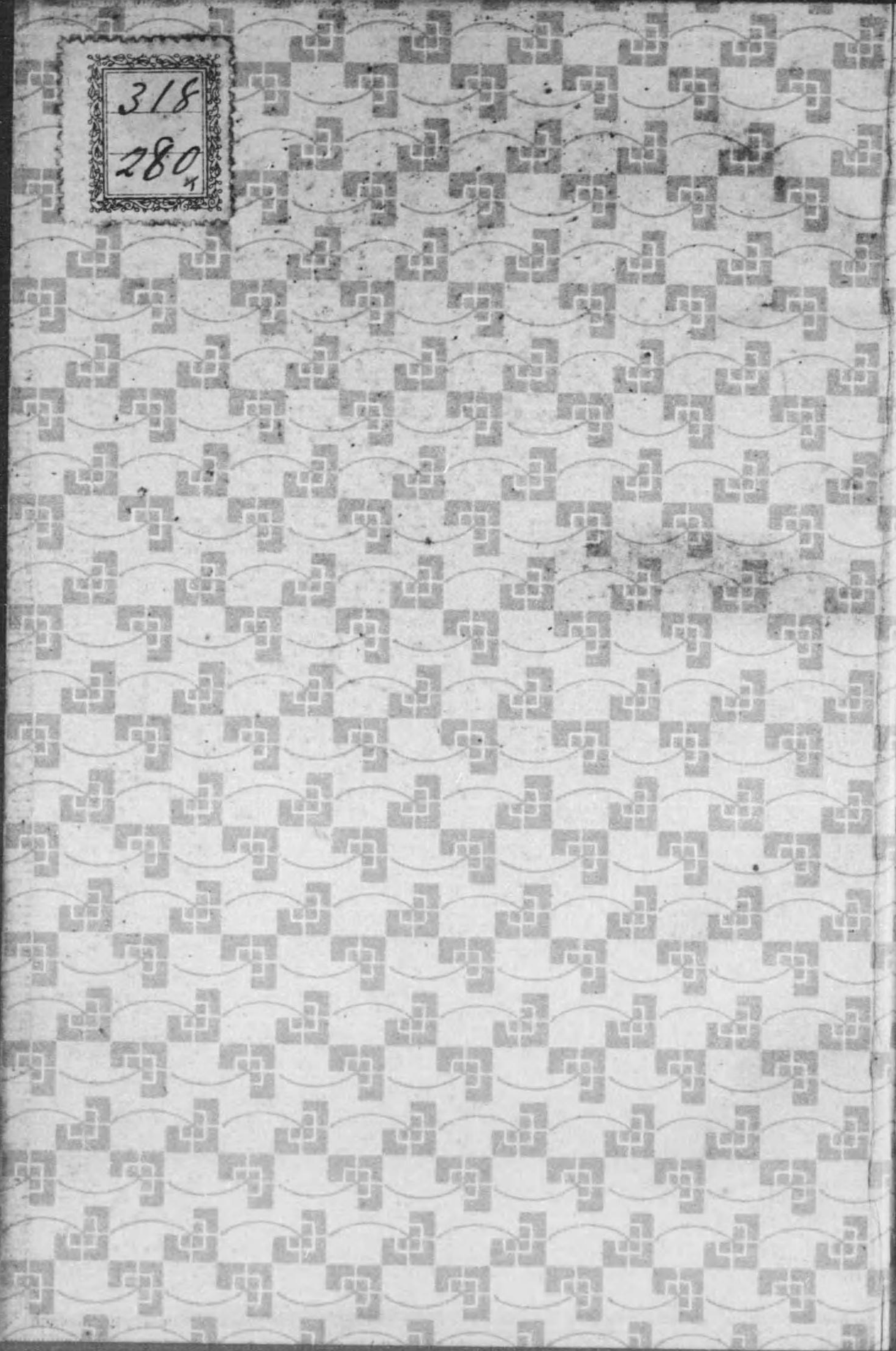
野外陣中要務問答

携帶至便
製本洋布製
價參拾五錢

『陣中要務令』ハ、上ハ高級指揮官ヨリ下ハ下士卒ニ至ル各階級ニ必要ナル勤務法ヲ規定セルモノ
ニシテ、初級幹部ノ直接ハ職務ヲ盡スニ緊要ナル事項ハ寧ロ甚ダ多カラズト雖モ、其活用ノ範圍
ハ極メテ大ナリ。

本書ハ即チ初級幹部ノ爲ニ直接須要ナル事項ヲ
拔萃シ且ツ應用例ヲ舉ケテ本令ノ精神ヲ理解ス
ルニ便ニシ、殊ニ問答體ト爲シテ自習ノ用ニ供シ
タルモノナレハ、初級士官各位ノ教授用トシテ無
二ノ參考書タリ。

318
280



終

